



Sitecore CMS 6.6

インストール ガイド

管理者およびデベロッパー用インストール ガイド 管理者およびデベロッパー用インストール ガイド

目次

第 1 章	イントロダクション	5
1.1	Sitecore CMS 6 のインストールの準備	7
第 2 章	Sitecore CMS 6 の要件	8
2.1	Sitecore ホスト環境の要件	9
2.1.1	IISの要件	9
2.1.2	オペレーティング システムの要件	9
2.1.3	.NET Framework の要件	10
2.1.4	データベースの要件	11
2.1.5	単一の Sitecore が動作するためのサーバーのハードウェアの要件	11
2.2	Sitecore クライアントの要件	12
2.2.1	ソフトウェアの要件	12
2.2.2	ハードウェアの要件	12
第 3 章	Sitecore のインストール プログラムの使用	13
3.1	Windows Vista/Windows 7 でのインストール前の手順	14
3.1.1	UAC (ユーザーアカウント制御) 設定	14
3.2	インストール プロセス	16
3.2.1	完全 モード	18
3.2.2	[データベースのみ] のインストール モード	26
3.2.3	[クライアントのみ] のインストール モード	32
3.3	Sitecore のアンインストール	41
3.4	トラブルシューティング	42
第 4 章	.ZIP ファイルからのインストール	43
4.1	インストール プロセスの概要	44
4.2	フォルダーおよびレジストリのアクセス許可の設定	46
4.2.1	匿名要求を実行するためのファイル システムのアクセス許可	46
4.2.2	ASP.NET の要求を実行するためのファイル システムのアクセス許可	46
4.2.3	システム フォルダー用のファイル システムのアクセス許可	47
4.2.4	SQL Server ファイル用のファイル システムのアクセス許可	48
4.2.5	Windows のレジストリへのアクセス許可	48
	ユーザー グループへのアカウントの追加	48
4.3	IIS の設定	49
4.3.1	IIS 7	49
	アプリケーション プールの作成	49

Web サイトの作成	52
匿名ユーザーのアクセスの制限	54
4.3.2 IIS 6	56
Web サイトの作成	59
匿名ユーザーのアクセスの制限	60
4.3.3 IIS 5	63
ホーム ディレクトリの設定	63
匿名ユーザーのアクセスの制限	63
4.4 Microsoft SQL Server の設定	67
4.4.1 SQLServer2008 に Sitecore CMS データベースのデータベース アカウントを作成	67
4.4.2 保存したプロシージャへの実行権限の許可	70
4.5 Oracle データベースのストレージの設定	72
4.5.1 Oracle のストレージの設定	72
データベース サーバーの準備	72
Web サイト サーバーを設定する手順	73
4.6 Sitecore のアンインストール (ZIP からインストールした場合)	75
第 5 章 制限および固有の要件	76
5.1 OS に固有の要件	77
5.1.1 Windows XP	77
5.2 ワーカー プロセスの最大数	78
5.3 その他	79
5.3.1 最新アップデートのインストール	79
5.3.2 UNC 共有はサポートされない	79
5.3.3 Sitecore は仮想ディレクトリから動作できない	79
5.3.4 .NET Framework の更新前に IIS をインストールする	79
第 6 章 インストール後の手順	80
6.1 ASP.NET 4.0 で Sitecore を実行するために必要な Web.config の変更	82
6.2 コンテンツの有効期限	83
6.3 Windows Authentication for Sitecore	85
6.4 Microsoft SQL Server データベースのプロパティの設定	86
6.5 検索インデックスとリンク データベースの再構築	88
6.6 キャッシュ設定	89
第 7 章 付録	90
7.1 サーバーの設定	91
7.1.1 フォルダーのセキュリティ設定の更新	91
[セキュリティ] タブの表示	91
アカウントの表示	92

7.1.2	Oracle インスタンスへの接続の追加.....	93
7.2	IIS.....	98
7.2.1	IIS へのアクセス	98
7.3	Visual Studio での Web プロジェクトの作成	99

第 1 章

イントロダクション

このマニュアルでは、Sitecore CMS のインストールについて説明します。

デベロッパー ワークステーションやテスト環境を含む小規模の実装の場合、Sitecore CMS とデータベース サーバーを 1 台のコンピューターにインストールできます。大規模の実装の場合、データベース サーバーは通常、アプリケーション サーバーとは別にします。ビジネス ユーザー向けのコンテンツ オーサリング環境も、インターネット ユーザーがアクセスするコンテンツ デリバリー環境と別にすることが多々あります。

Sitecore は 3 つの論理コンポーネントに分割できます。これは、新しい Sitecore インスタンスのインストールに setup .exe ファイルと .zip ファイルのいずれを使用するか、および使用するデータベース テクノロジーの種類には無関係です。

この 3 つの論理コンポーネントは次のとおりです。

- IIS ドキュメントのルート (「Web サイト」)。
- ログおよびデータ用のサポート ファイル システム。
- サポートするリレーショナル データベース。データベースは多くの場合、サポートするファイル システムの下に保存されます。

設定は、web.config や /App_Config フォルダー内のファイルなどのファイルにより管理されます。

Sitecore のインストール中のセキュリティ強化の詳細については、『セキュリティ強化ガイド』を参照してください。

Sitecore CMS は、次の 2 つの方法で配布できます。

- インストール プログラムの実行ファイル — .exe ファイル。
- ファイル システム内にある Sitecore CMS ソリューションのアーカイブ済みコピーの形式 — zip ファイル。

可能な限り、インストール プログラムを使用してください。インストール プログラムには、インストール プロセスを支援するウィザードが含まれています。

インストール プログラムを使用すると、zip ファイルを構成するよりも、手動操作がかなり少なくなります。

使用している Sitecore CMS ソリューションのアーカイブを作成し、あるコンピューターから別のコンピューターに移動することができます。

このマニュアルには次の章があります。

- **第 1 章 – イントロダクション**
- **第 2 章 – Sitecore CMS 6 の要件**
- **第 3 章 – Sitecore のインストール プログラムの使用**
- **第 4 章 – .ZIP ファイルからのインストール**
- **第 6 章 – インストール後の手順**
- **第 5 章 – 制限および固有の要件**
- **第 7 章 – 付録**

サポートが必要な場合、またはこのマニュアルと製品との不整合を報告する場合は、<http://support.sitecore.net/helpdesk/> に連絡してください。

1.1 Sitecore CMS 6 のインストールの準備

選択したデータベース テクノロジ、サーバー管理者の好み、および実行する環境（開発、テスト、コンテンツ オーサリング、コンテンツ デリバリーなど）に応じて、さまざまな方法で Sitecore をインストールできます。

Sitecore CMS のアーキテクチャを十分に理解し、インストール マニュアルを読んだ後に、基本的なインストール計画を決定する必要があります。

Sitecore CMS のインストールを試行する前に、次の項目を決定する必要があります。

- プロジェクト名とその頭字語（例：ProjectName）。
- 頭字語/接頭辞（例：PN）。
- インストール先となるファイル システムのルート（例：C:\inetpub\wwwroot\ProjectName）。
- データベース テクノロジ — SQL Server 2008、SQL Server 2008 R2、SQL Server 2012 または SQL Express、または Oracle。
- データベースの場所 — ローカル、またはリモート サーバー上。
- Sitecore CMS の適切なライセンス。
- ハードウェア。
- コンピューターやデータベースへの管理者のアクセス権限。
- Sitecore Developer Network (<http://sdn.sitecore.net>) へのアクセス — 最寄りの営業オフィス、またはパートナー マネージャーに連絡してください。
- IIS の設定 — ホスト ヘッダーなど。

第 2 章

Sitecore CMS 6 の要件

この章では、Sitecore CMS 6 のホスト コンピューターおよびクライアント コンピューターの前提条件、ハードウェアおよびソフトウェアの要件について説明します。このマニュアルでは、用語 "サーバー" は Windows OS Web サーバーを指し、用語 "ホスト" は、サーバーまたはワークステーションにインストールした Sitecore CMS を指します。

この章には次のセクションがあります。

- Sitecore ホスト環境の要件
- Sitecore クライアントの要件

2.1 Sitecore ホスト環境の要件

2.1.1 IISの要件

Sitecore CMS は、サポートされているオペレーティング システム上で動作する次の IIS バージョン上でホストできます。

- IIS 5.1
- IIS 6.0
- IIS 7.0
- IIS 7.5

Sitecore CMS は、他の ASP.NET Web サーバー (Visual Studio Cassini、IIS Express、Mono Web Server など) をサポートしません。

重要

Sitecore では、同じ Sitecore Web ルートを参照する複数の IIS Web サイト定義がサポートされず、また許可もされません。

2.1.2 オペレーティング システムの要件

Sitecore CMS は、次の Microsoft オペレーティング システムでホストできます。

- Windows XP (32 ビットのみ)
- Windows Server 2003 (32/64 ビット)
- Windows Server 2008 (32/64 ビット)
- Windows Server 2008 R2 (64 ビット)
- Windows Vista (32/64 ビット)
- Windows 7 (32/64 ビット)

重要

Microsoft Update のサイト(<http://windowsupdate.microsoft.com>) で、お使いの Sitecore CMS のホストおよびクライアントのコンピューターのすべてに、該当するサービス パックとセキュリティ アップデートをすべてインストールしてください。

Windows XP サービス パック 2 (またはそれより新しいアップデート) を、Sitecore をホストするそれぞれの Microsoft Windows XP コンピューター、または Internet Explorer を使用して Sitecore にアクセスするそれぞれの Microsoft Windows XP コンピューターにインストールする必要があります。Microsoft Windows 2003 の場合、サービス パック 2 (またはそれより新しいアップデート) を強くお勧めします。サービス パック 1 は最低限の要件です。

Sitecore CMS は、**Windows Vista** オペレーティング システムの次のエディションをサポートしています。

- Business
- Ultimate
- Enterprise

Home Basic などの Vista の他のエディションには、IIS サーバーの制限があります。Windows Vista のさまざまなエディションにおける IIS の設定の詳細については、次の記事を参照してください。

- [Why you need Vista Business / Ultimate for IIS 7? \(IIS 7 に対応する Vista Business/Ultimate の必要性\)](#)
- [IIS 7.0 Features and Vista Editions \(IIS 7.0 機能と Vista のエディション\)](#)

Sitecore CMS は、**Windows 7** オペレーティング システムの次のエディションをサポートしています。

- Ultimate
- Professional
- Enterprise

IIS 7.5 をインストールした場合、**Windows 7 Home Premium** で Sitecore を実行できます。Windows 7 Home Premium に IIS 7.5 をインストールする方法の詳細については、次の記事を参照してください。

- [Windows 7 Home Premium、Home Basic、または Home Starter への IIS 7.5 のインストール](#)

Windows 7 のエディションの機能上の制限については、次の記事を参照してください。

- [IIS 7.5 で使用できる Web サーバー \(IIS\) の役割サービス](#)

2.1.3 .NET Framework の要件

Sitecore CMS 6 には、.NET Framework 3.5 サービスパック 1 または .NET Framework 4 が必要です。

使用できる .NET framework のアップデートをすべて、Sitecore の各ホストに適用する必要があります。

IIS 6 上で動作する Sitecore ホストについて、ASP.NET の設定の問題を減らすために、.NET framework を更新する前に IIS をインストールして有効にします。

IIS 6 を実行していて、IIS をインストールする前に .NET Framework をインストールしていた場合は、トラブルシューティングの手順について次の記事を参照してください。

- [Troubleshooting an ASP.NET Installation \(IIS 6.0\) \(ASP.NET インストール \(IIS 6.0\) でのトラブルシューティング\)](#)

2.1.4 データベースの要件

Sitecore CMS は、次のデータベース サーバーをサポートしています。

- MS SQL Server 2008
- MS SQL Server 2008 R2
- MS SQL Server 2012
- Oracle 11g

メモ

Oracle データベースで Sitecore を実行するには、ライセンス ファイル内に Oracle 固有のライセンス キーが必要です (Sitecore.Oracle および Sitecore.FireDB)。

MS SQL Server を使用している場合は、MS SQL Server 2008 R2 を使用することをお勧めします。

メモ

6.5 Update-3 から、Oracle 10g はサポートされなくなります。これは、2010 年7 月から Oracle が 10.2 を積極的にサポートしなくなるためです。

データベースは、Web サーバーとは別のサーバーで実行することをお勧めします。

2.1.5 単一の Sitecore が動作するためのサーバーのハードウェアの要件

次のハードウェア要件が推奨されます。

- 4 コア プロセッサ
- 4 GB の RAM

メモ

推奨のハードウェア要件は、1 台のコンピューターでソフトウェアを実行するためのものです。異なる種類のハードウェア上での Sitecore の実行の詳細については、Sitecore パートナーまたは技術営業担当者に相談してください。

2.2 Sitecore クライアントの要件

2.2.1 ソフトウェアの要件

ブラウザ

Sitecore CMS クライアントは、ブラウザベースのユーザー インターフェースです。Sitecore クライアントは、次のブラウザで動作できます。

- Microsoft Internet Explorer 9 は、CMS 6.5 Update-2 (rev. 111123) およびそれ以降の CMS 6.5 更新プログラムによってサポートされています。
- Microsoft Internet Explorer 7 および 8
- Mozilla Firefox 3.6 以降
- Google Chrome 5 以降
- Apple Safari 5

メモ

Microsoft Internet Explorer 9 でページ エディター、プレビュー、または Sitecore デバッガーを使用するには、ブラウザの互換表示モードを有効にする必要があります。

メモ

特に指定がない限り、Sitecore CMS 6.5 は上記のブラウザについて、現在安定しているバージョンをすべてサポートします。

ブラウザの設定方法の詳細については、『ブラウザの設定リファレンス』を参照してください。

Silverlight

Sitecore DMS をインストールする場合は、Microsoft Silverlight 4 以降もインストールする必要があります。

2.2.2 ハードウェアの要件

- プロセッサ: Intel Pentium 4 2 GHz、またはより高速のプロセッサ。
- RAM: 最低 512 MB。1 GB を推奨。
- TCP/IP 接続: Sitecore CMS ホストへの接続に 512 Kbps 以上。
- 高度な操作には 1024 x 768 以上の画面解像度が必要。

Sitecore CMS サーバーにアクセスする Sitecore CMS クライアントには、他の追加ソフトウェアをインストールする必要はありません。

第 3 章

Sitecore のインストール プログラムの使用

この章では、インストール プログラムの実行ファイルを使用して Sitecore CMS をインストールするプロセスについて説明します。

Sitecore のインストールプログラムは、[Sitecore CMS のダウンロード ページ](#)からダウンロードできます。

この章には次のセクションがあります。

- Windows Vista/Windows 7 でのインストール前の手順
- インストール プロセス
- Sitecore のアンインストール
- トラブルシューティング

3.1 Windows Vista/Windows 7 でのインストール前の手順

Windows Vista または Windows 7 上に Sitecore をインストールするには、UAC (ユーザー アカウント制御) 設定のセキュリティ ポリシー、[アプリケーションのインストールを検出し、昇格をプロンプトする] を有効にする必要があります。

3.1.1 UAC (ユーザーアカウント制御) 設定

Windows Vista または Windows 7 上でインストール プログラムを実行するには、UAC (ユーザー アカウント制御) 設定セキュリティ ポリシー、[アプリケーションのインストールを検出し、昇格をプロンプトする] を有効にする必要があります (この設定はデフォルトで有効です)。

使用しているコンピューターでこの設定が変更されたかどうかを調べるには、次の手順に従います。

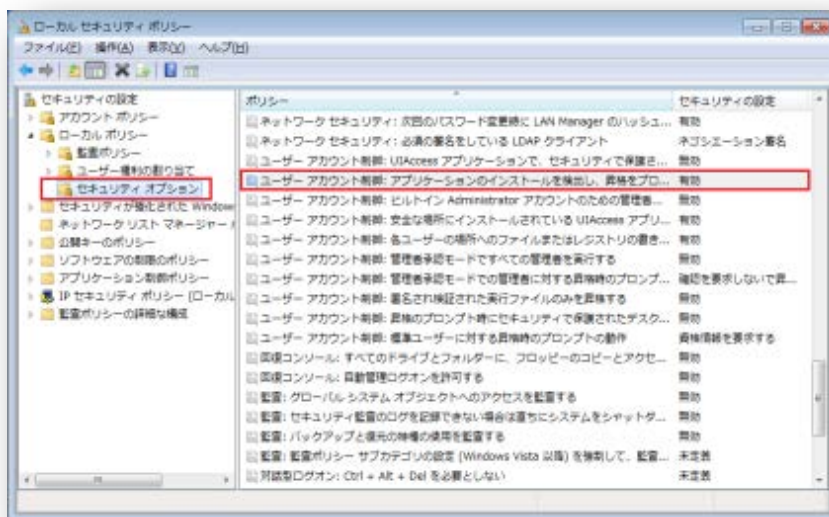
1. 管理者として Vista にログインします。
2. WIN + R を押して、[ファイル名を指定して実行] ダイアログを開きます。
3. [ファイル名を指定して実行] ダイアログに「secpol.msc」と入力して、ENTER キーを押します。

UAC (ユーザー アカウント制御) により、続行するための権限が要求されます。



4. [続行] をクリックして、[ローカル セキュリティ ポリシー] ウィンドウを開きます。
5. 左側のペインにある [ローカル ポリシー] ノードを展開して、[セキュリティ オプション] をクリックします。
6. 右側のペインで、ポリシー リストの下方向にスクロールします。

7. [ユーザー アカウント制御: アプリケーションのインストールを検出し、昇格をプロンプトする] ポリシーが [有効] になっていることを確認します。



3.2 インストール プロセス

インストール プロセスを開始するには、インストール ウィザードを開始する **Sitecore 6.X.X rev.XXXXXX.exe** アプリケーションを起動する必要があります。このセクションでは、ウィザードの手順について説明します。

メモ

Sitecore CMS 設定ファイルは、ウィザードに入力される設定に応じて自動的に変更されます。

ウィザードの開始画面



ウィザードの開始画面の内容を確認し、[次へ] をクリックします。

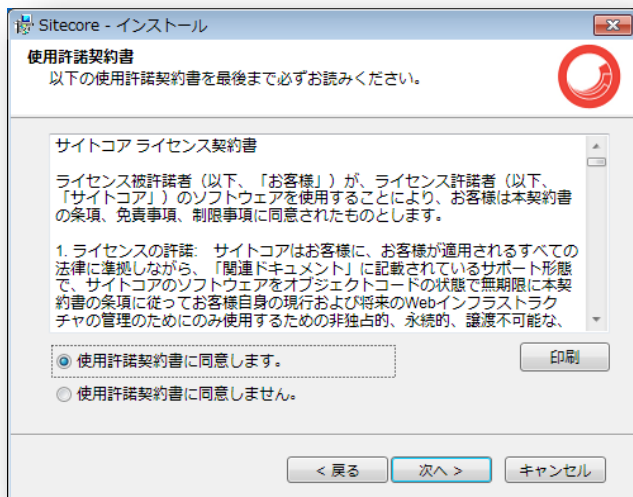
アップグレードまたは新規インスタンス



新規インスタンスをインストールするには、[新規インスタンスを作成する] ラジオ ボタンをクリックします。

Sitecore CMS の既存のインスタンスを削除するには、[既存のインスタンスを削除する] をクリックします。このオプションは、コンピューターに Sitecore のインスタンスがすでに存在する場合にのみ有効です。

使用許諾契約書



使用許諾契約書を読んで、適切なラジオ ボタンをクリックします。[次へ] をクリックします。

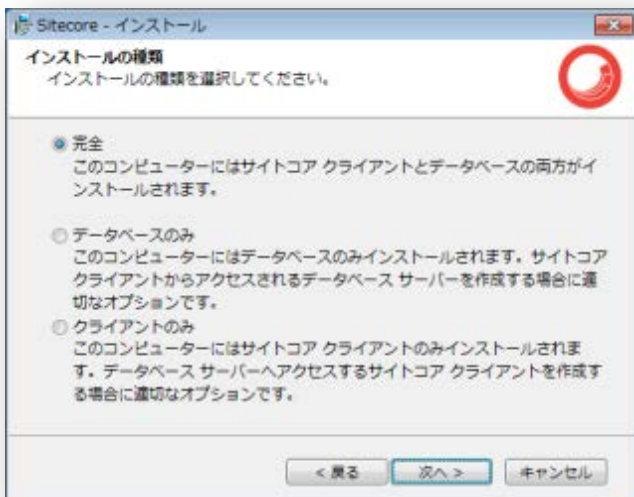
インストール モード

インストール モードを選択します。

- [完全]。このモードでは、Sitecore のデータベースと Sitecore クライアントの両方が、ローカル コンピューターにインストールされます。
- [データベースのみ]。このモードでは、Sitecore のデータベースのみがインストールされます。
- [クライアントのみ]。このモードでは、データベースを除くすべてのものがインストールされます。

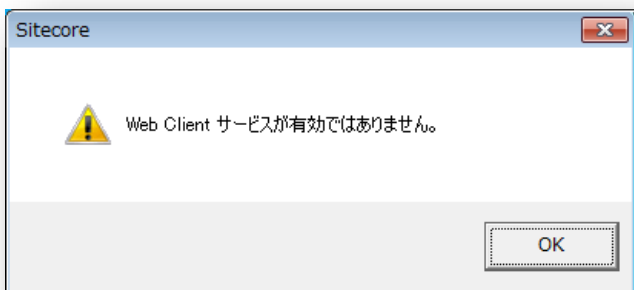
3.2.1 完全モード

このモードでは、Sitecore のデータベースと Sitecore クライアントの両方が、ローカル コンピューターにインストールされます。



[完全] チェック ボックスをオンにします。

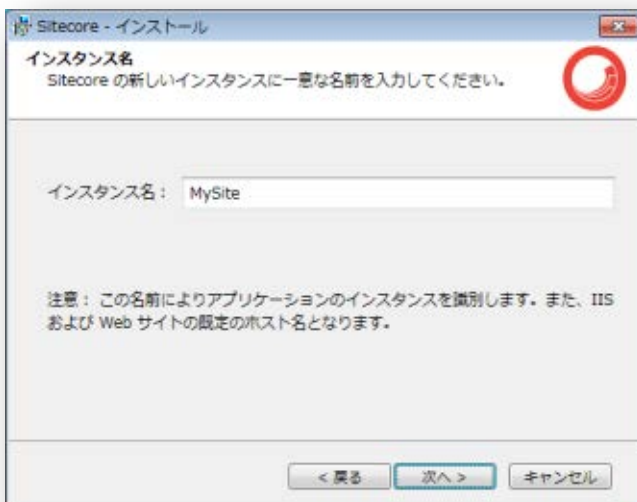
Sitecore WebDAV 機能をインストールするには、コンピューターに WebClient サービスが必要です。存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。



WebDAV 機能をインストールしない場合は、このメッセージを無視してください。

[次へ] をクリックします。

インスタンス名



この新しい Sitecore CMS のインスタンスに、一意の名前を指定します。後の手順で新しいサイトを作成する場合、この名前は、IIS の Web サイトのホスト名としても使用されます。

ライセンス ファイル

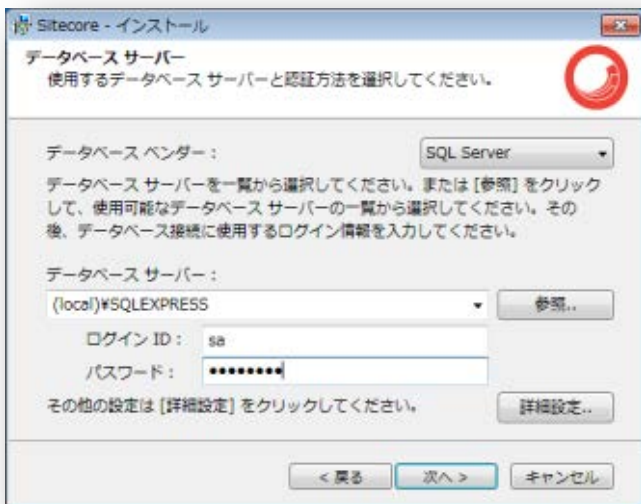


ライセンス ファイルを選択します。[次へ] をクリックします。

データベース サーバー

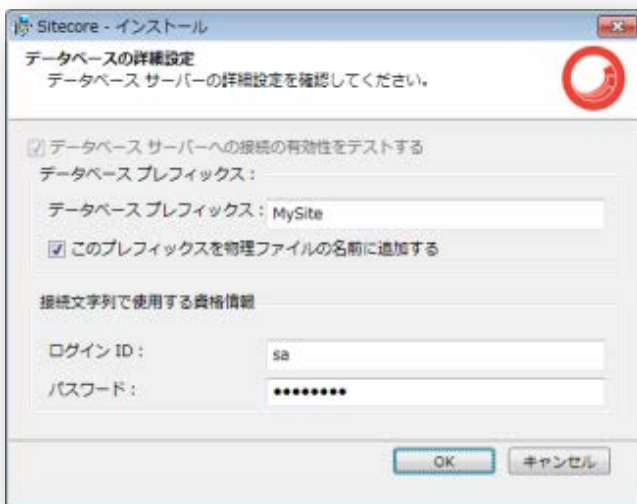
データベース サーバーを選択します。

SQL サーバーを選択した場合、次の **[データベース サーバー]** ダイアログ ボックスが表示されます。



データベースのベンダーを選択します。リストからデータベース サーバーを選択するか、**[参照]** をクリックして、使用できるデータベース サーバーの全リストを表示します。ログイン ID (SQL サーバーのユーザー名)、および対応するパスワードを入力します。インストール プログラムはこれらの資格情報を使用して、SQL サーバーにアクセスします。

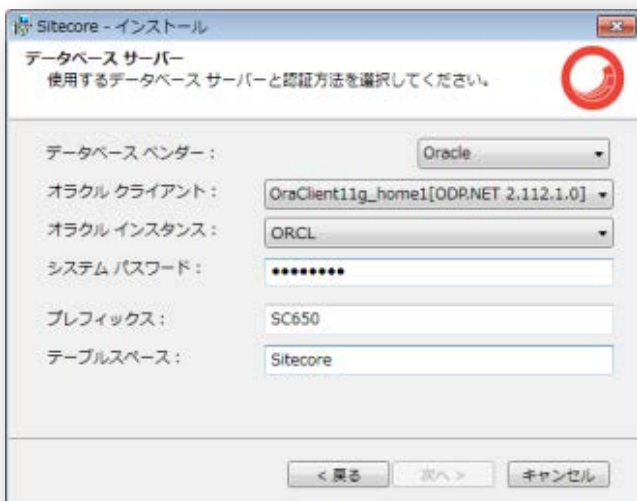
データベースの接頭辞のオプションを設定するには、**[詳細設定]** をクリックします。**[データベース サーバーの詳細設定]** ダイアログ ボックスが表示されます。



この Sitecore CMS のインスタンスのデータベース接頭辞を指定し、物理ファイルの前に付けるかどうかを選択します。ログイン ID (SQL サーバーのユーザー名)、および対応するパスワードを入力します。Sitecore のアプリケーションはこれらの資格情報を使用して、SQL サーバーにアクセスします。[OK] をクリックします。

[次へ] をクリックします。

Oracle を選択した場合、次の [データベース サーバー] ダイアログ ボックスが表示されます。



重要

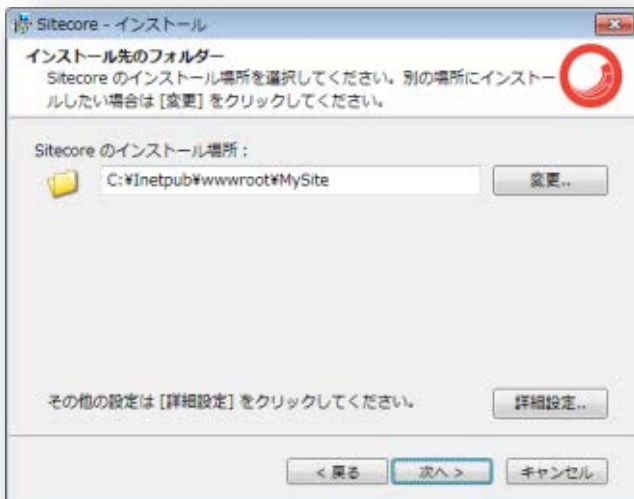
最初に、適切な表領域を作成する必要があります。このためには、次の SQL スクリプトを実行します。

```
createtablespace sitecore_logging_datafile 'sitecore.dbf' size 200M  
reuseautoextend on next 100M extent management local segment space management auto;
```

Oracle データベース サーバーを選択します。このダイアログ ボックスには、次のボックスがあります。

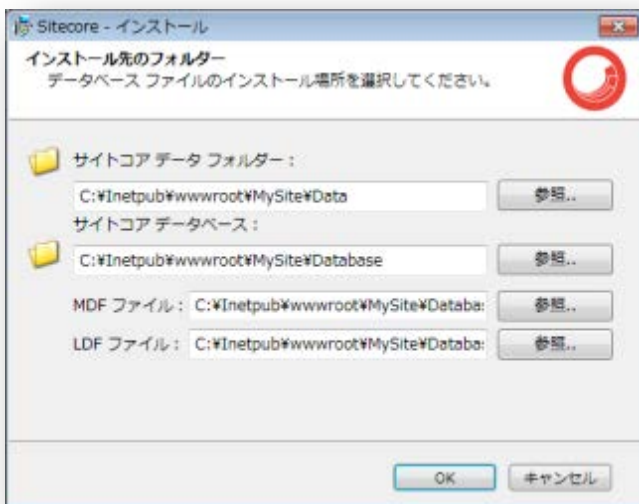
- **[Oracle クライアント]** – Oracle クライアントを選択します。
- **[Oracle インスタンス]** – Oracle インスタンスを選択します。
- **[システム パスワード]** – Oracle インスタンスのシステム ユーザーのパスワード。
- **[プレフィックス]** – ユーザーのスキーマ名およびパスワードに使用する接頭辞。
- **[テーブルスペース]** – Sitecore データの表領域の名前。

[次へ] をクリックします。

インストール先フォルダー

Sitecore CMS の Web サイトのインストール先となるフォルダーを選択します。

データベース フォルダー、およびさまざまなデータ ファイル (ログ ファイル、パッケージなど) の保存先となるフォルダーを変更するには、[詳細設定] をクリックします。[インストール先フォルダー] ダイアログ ボックスが表示されます。



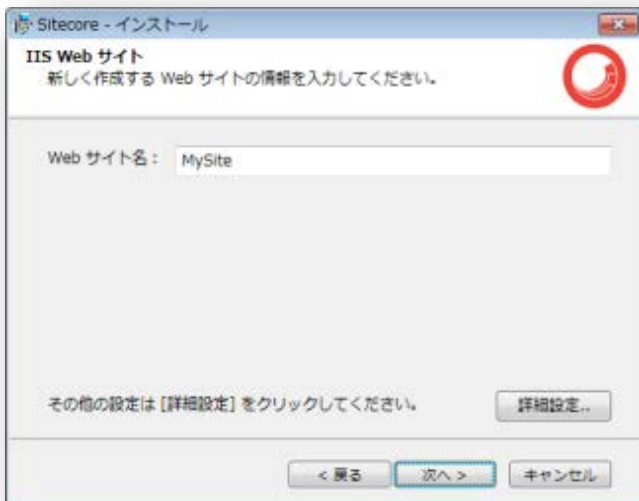
新しいインストール先フォルダーを入力して、[OK] をクリックします。

[次へ] をクリックします。

メモ

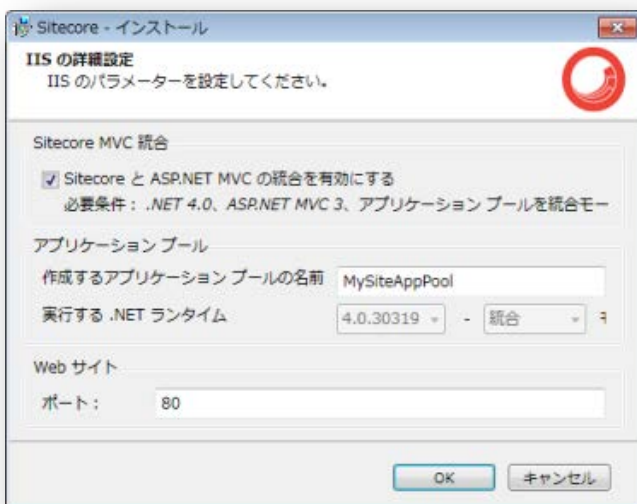
必ず、インストール先フォルダーへの書き込み許可を SQL サーバーに指定してください。

IIS の Web サイト

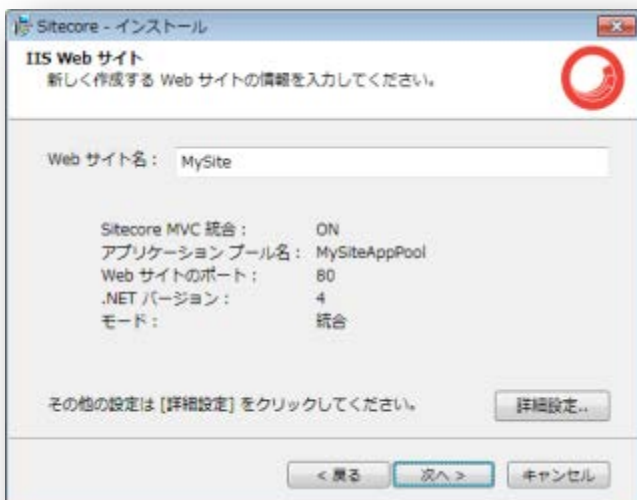


新しい Web サイトの名前を入力します。

Sitecore ASP.NET MVC 統合を有効にし、Web サイト ポート、アプリケーション名、およびそのモードと .NET Framework のバージョンを編集するには、**[詳細設定]** をクリックします。

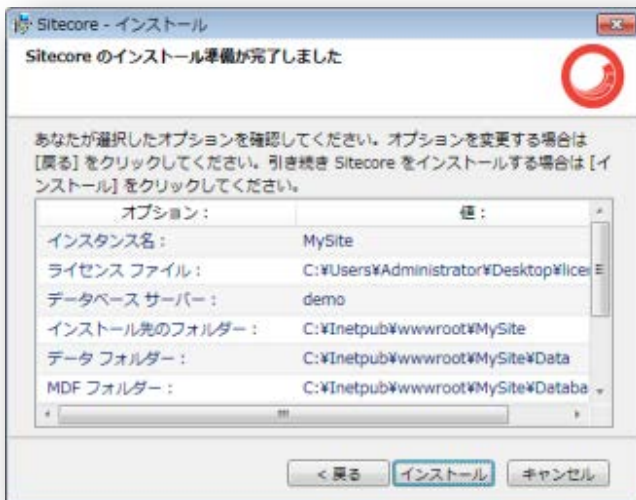


[OK] をクリックします。**[Sitecore と ASP.NET MVC 統合を有効にする]** チェックボックスをオンにすると、**[IIS の詳細設定]** ダイアログ ボックスの **[Sitecore MVC 統合]** フィールドに反映されます。



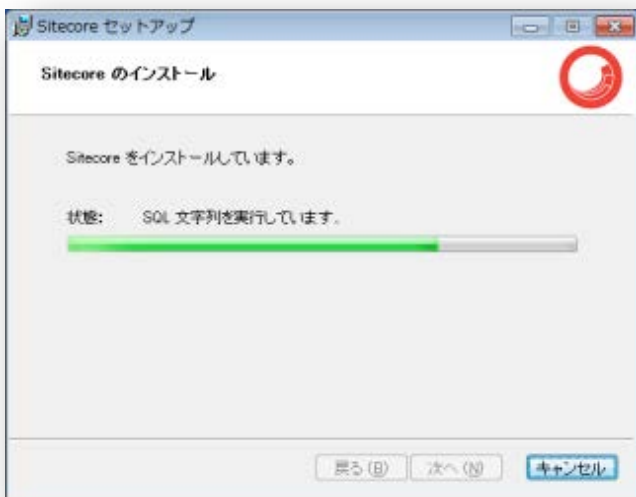
[次へ] をクリックします。

Sitecore をインストールする準備ができました



選択したオプションを確認します。Sitecore CMS をインストールするには、[インストール] をクリックします。

Sitecore をインストールしています



[次へ] をクリックすると、インストールの進捗を示すウィンドウが表示されます。

完了

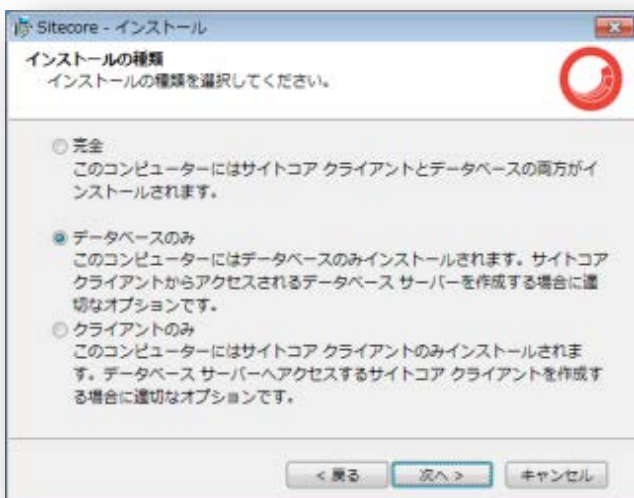


Sitecore インストール ウィザードが完了しました。[完了] をクリックして、ウィザードを終了します。

3.2.2 [データベースのみ] のインストール モード

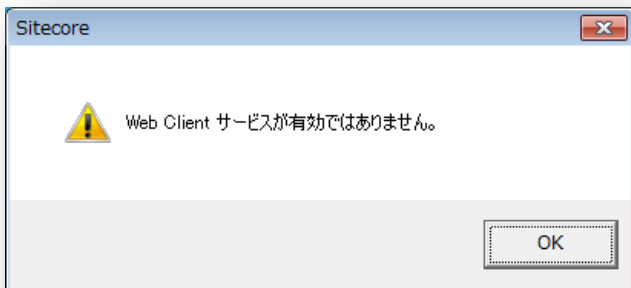
このセクションでは、[データベースのみ] のインストール モードについて説明します。このモードでは、Sitecore のデータベースのみがインストールされます。

インストール モード



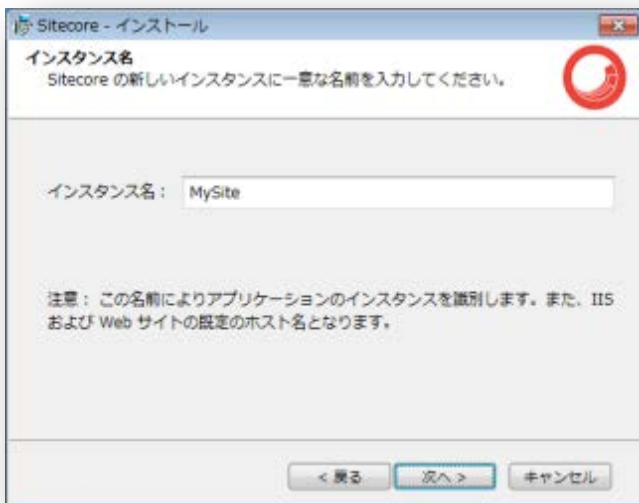
データベースのみをインストールするには、[データベースのみ] チェック ボックスをオンにします。

Sitecore WebDAV 機能をインストールするには、コンピューターに WebClient サービスが必要です。存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。



WebDAV 機能をインストールしない場合は、このメッセージを無視してください。

インスタンス名

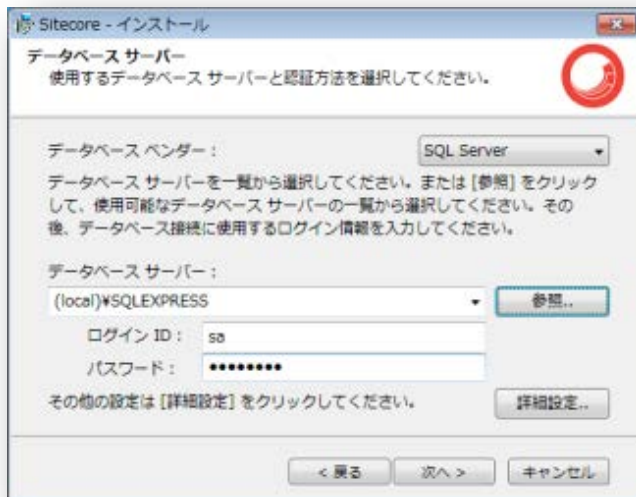


この新しい Sitecore CMS のインスタンスに、一意の名前を指定します。後の手順で新しいサイトを作成する場合、この名前は、IIS の Web サイトのホスト名としても使用されます。

データベース サーバー

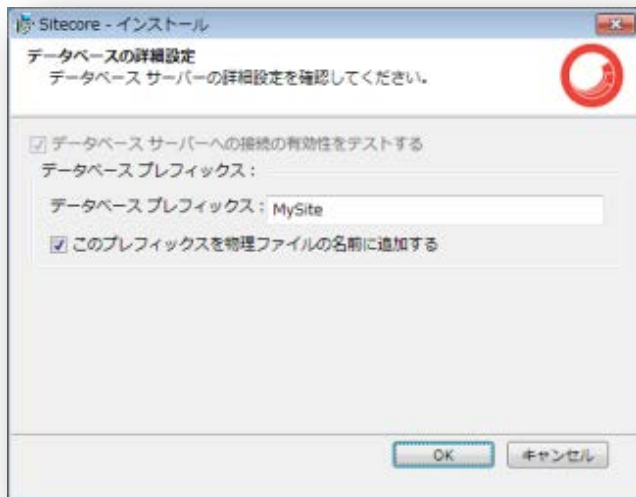
データベース サーバーを選択します。

SQL サーバーを選択した場合、次の **[データベース サーバー]** ダイアログ ボックスが表示されます。



リストからデータベース サーバーを選択するか、**[参照]** をクリックして、使用できるデータベース サーバーの全リストを表示します。ログイン ID (SQL サーバーのユーザー名)、および対応するパスワードを入力します。

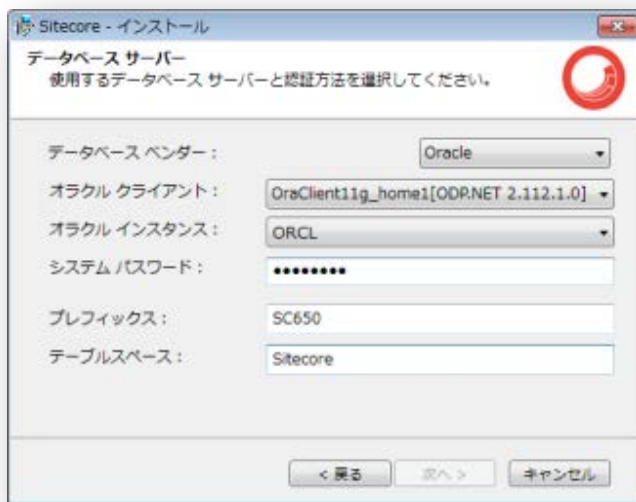
データベースの接頭辞のオプションを設定するには、**[詳細設定]** をクリックします。**[データベース サーバーの詳細設定]** ダイアログ ボックスが表示されます。



この Sitecore CMS のインスタンスのデータベース接頭辞を指定し、物理ファイルの前に付けるかどうかを選択します。**[OK]** をクリックします。

[次へ] をクリックします。

Oracle を選択した場合、次の [データベース サーバー] ダイアログ ボックスが表示されます。



重要

最初に、適切な表領域を作成する必要があります。このためには、次の SQL スクリプトを実行します。

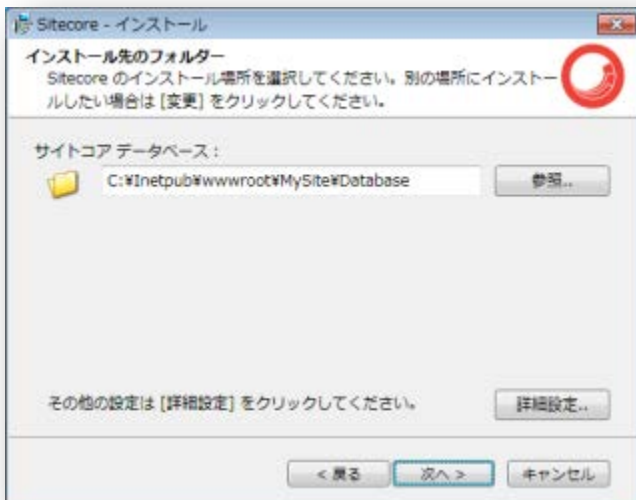
```
createtablespace sitecoreloggingdatafile 'sitecore.dbf' size 200M  
reuseautoextend on next 100Mextent management local segment space management auto;
```

Oracle データベース サーバーを選択します。このダイアログ ボックスには、次のボックスがあります。

- [オラクル クライアント] – Oracle クライアントを選択します。
- [オラクル インスタンス] – Oracle インスタンスを選択します。
- [システム パスワード] – Oracle インスタンスのシステム ユーザーのパスワード。
- [プレフィックス] – ユーザーのスキーマ名およびパスワードに使用する接頭辞。
- [テーブルスペース] – Sitecore データの表領域の名前。

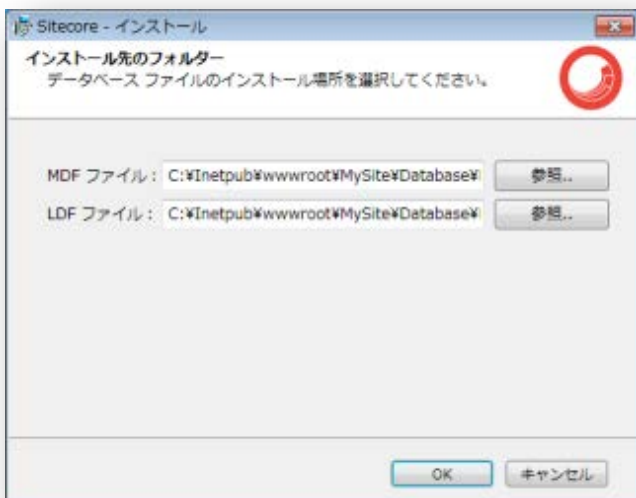
[次へ] をクリックします。

インストール先フォルダー



データベースのインストール先となる場所を選択します。

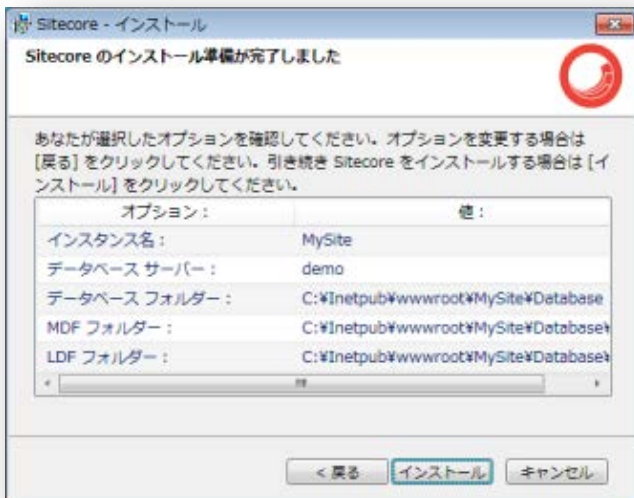
データベース フォルダー、およびさまざまなデータベース ファイルの保存先となるフォルダーを変更するには、[**詳細設定**] をクリックします。[**インストール先フォルダー**] ダイアログ ボックスが表示されます。



インストール先フォルダーを入力して、[**OK**] をクリックします。

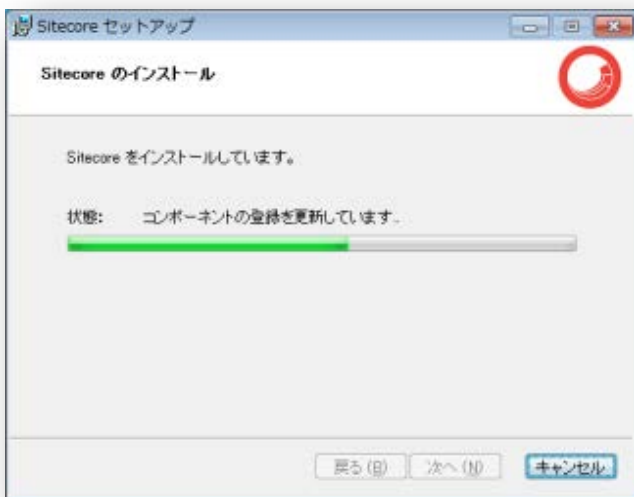
[**次へ**] をクリックします。

Sitecore をインストールする準備ができました



選択したオプションを確認します。Sitecore CMS をインストールするには、[インストール] をクリックします。

Sitecore をインストールしています



[次へ] をクリックすると、インストールの進捗を示すウィンドウが表示されます。

完了

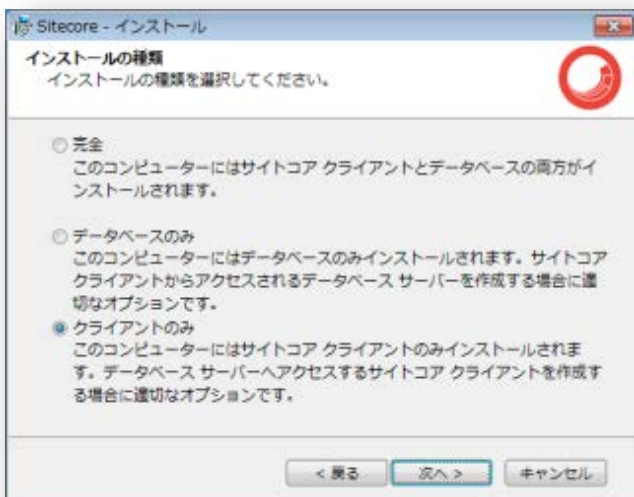


Sitecore インストール ウィザードが完了しました。[完了] をクリックして、ウィザードを終了します。

3.2.3 [クライアントのみ] のインストール モード

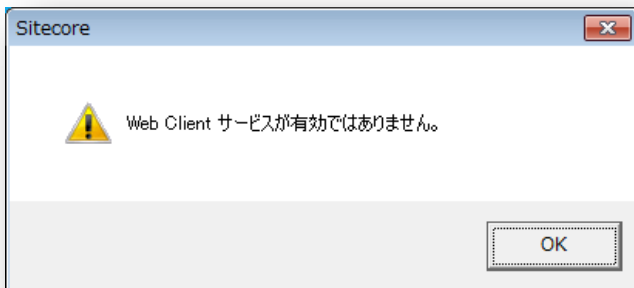
このセクションでは、[クライアントのみ] のインストール モードについて説明します。このモードでは、データベースを除くすべてのものがインストールされます。

インストール モード



[クライアントのみ] チェック ボックスをオンにします。[次へ] をクリックします。

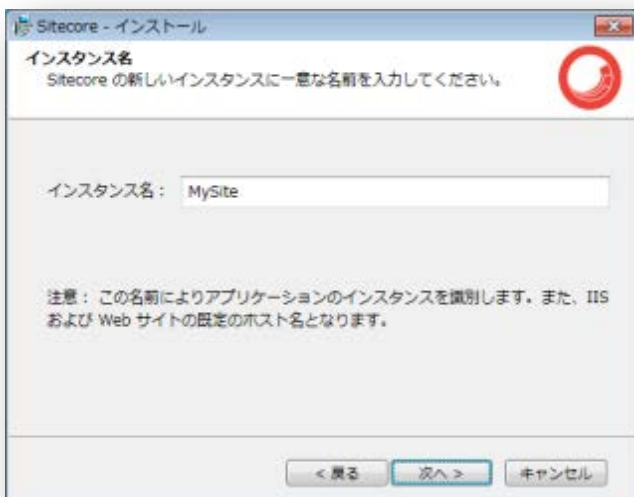
Sitecore WebDAV 機能をインストールするには、コンピューターに WebClient サービスが必要です。存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。



WebDAV 機能をインストールしない場合は、このメッセージを無視してください。

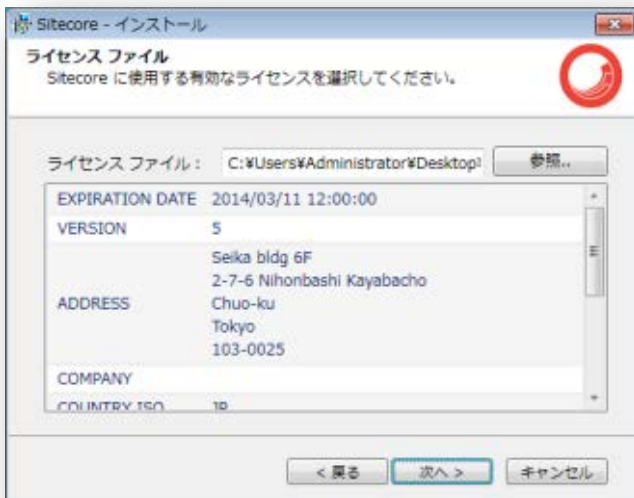
[次へ] をクリックします。

インスタンス名



この新しい Sitecore CMS のインスタンスに、一意の名前を指定します。後の手順で新しいサイトを作成する場合、この名前は、IIS の Web サイトのホスト名としても使用されます。

ライセンス ファイル

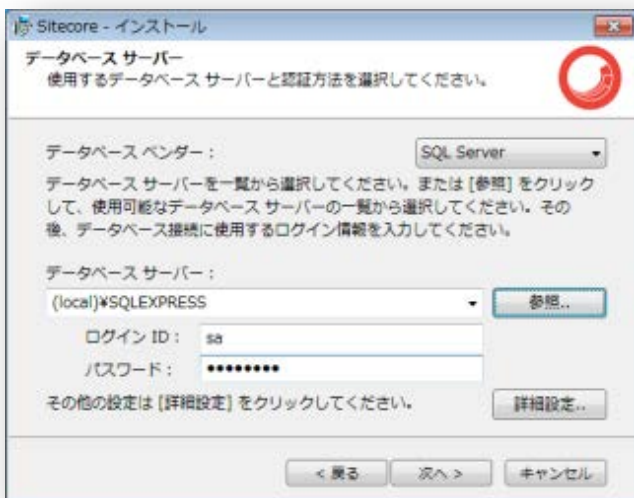


ライセンス ファイルを選択します。[次へ] をクリックします。

データベース サーバー

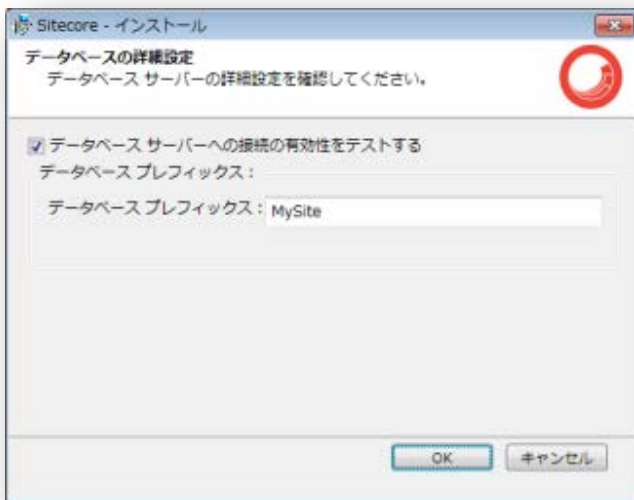
データベース サーバーを選択します。

SQL サーバーを選択した場合、次の [データベース サーバー] ダイアログ ボックスが表示されます。



データベースのベンダーを選択します。リストからデータベース サーバーを選択するか、[参照] をクリックして、使用できるデータベース サーバーの全リストを表示します。ログイン ID (SQL サーバーのユーザー名)、および対応するパスワードを入力します。インストール プログラムはこれらの資格情報を使用して、SQL サーバーにアクセスします。

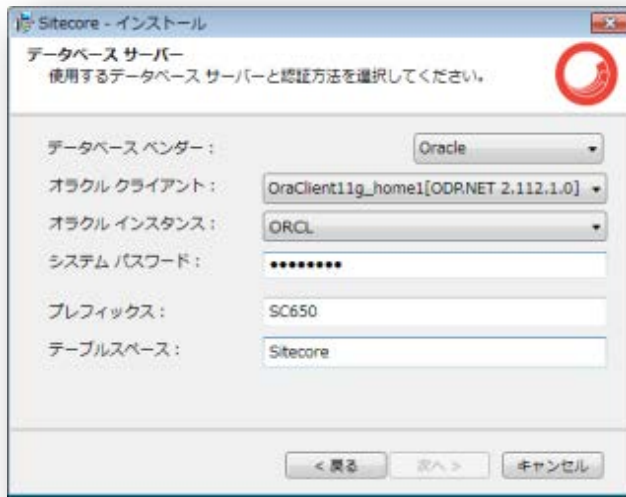
データベースの接頭辞のオプションを設定するには、[詳細設定] をクリックします。[データベース サーバーの詳細設定] ダイアログ ボックスが表示されます。



この Sitecore CMS のインスタンスのデータベース接頭辞を指定し、物理ファイルの前に付けるかどうかを選択します。[OK] をクリックします。

[次へ] をクリックします。

Oracle を選択した場合、次の [データベース サーバー] ダイアログ ボックスが表示されます。

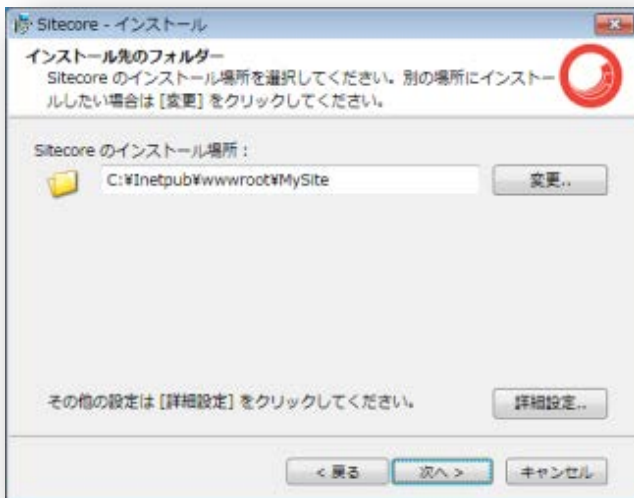


Oracle データベース サーバーを選択します。このダイアログ ボックスには、次のボックスがあります。

- [オラクル クライアント] – Oracle クライアントを選択します。
- [オラクル インスタンス] – Oracle インスタンスを選択します。
- [システム パスワード] – Oracle インスタンスのシステム ユーザーのパスワード。
- [プレフィックス] – ユーザーのスキーマ名およびパスワードに使用する接頭辞。
- [テーブルスペース] – Sitecore データの表領域の名前。

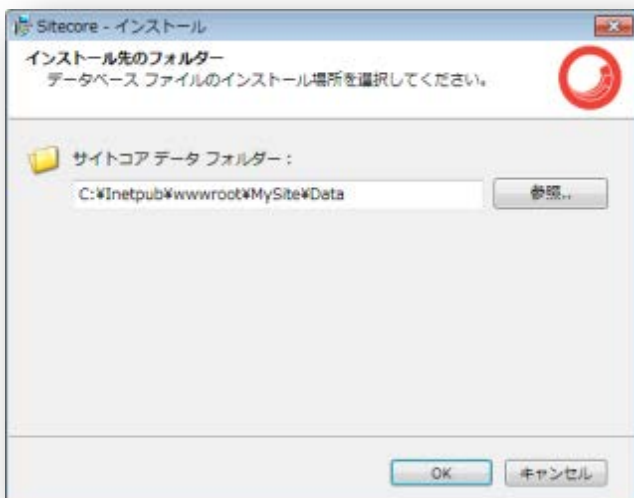
[次へ] をクリックします。

インストール先フォルダー



Sitecore のインストール先となる場所を選択します。

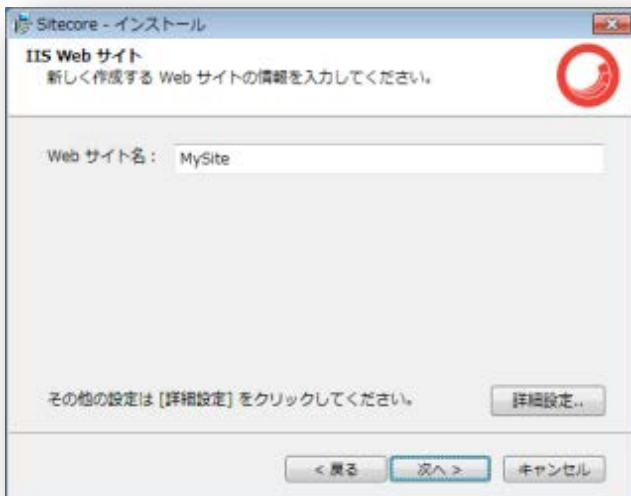
データベース フォルダー、およびさまざまなデータベース ファイルの保存先となるフォルダーを変更するには、**[詳細設定]** をクリックします。**[インストール先フォルダー]** ダイアログ ボックスが表示されます。



インストール先フォルダーを入力して、**[OK]** をクリックします。

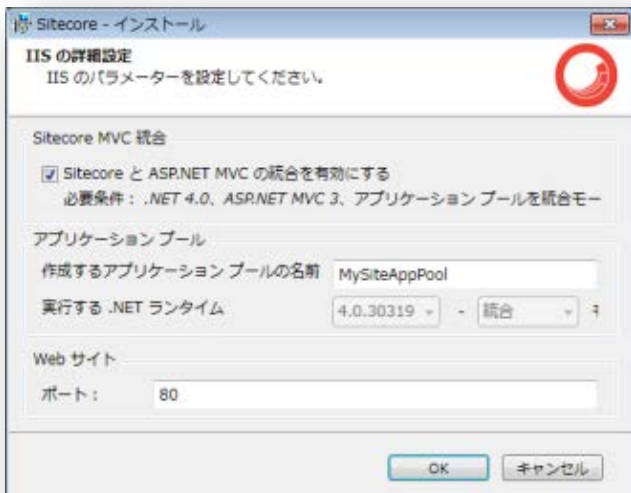
[次へ] をクリックします。

IIS の Web サイト



新しい Web サイトの名前を入力します。

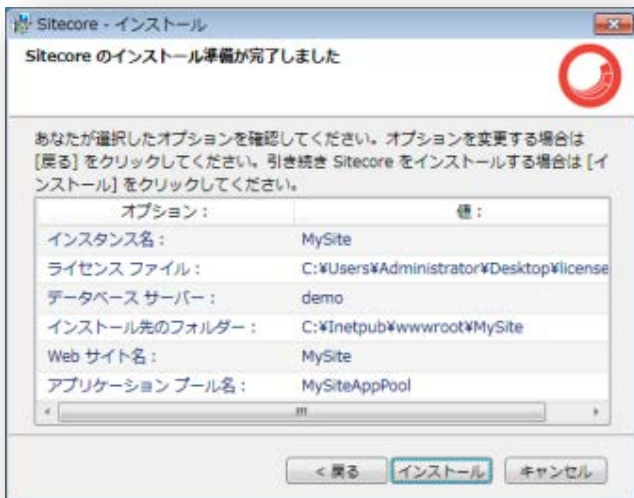
Sitecore ASP.NET MVC 統合を有効にし、Web サイト ポート、アプリケーション名、およびモードと .NET Framework バージョンを編集するには、**[詳細設定]** をクリックします。



[OK] をクリックします。

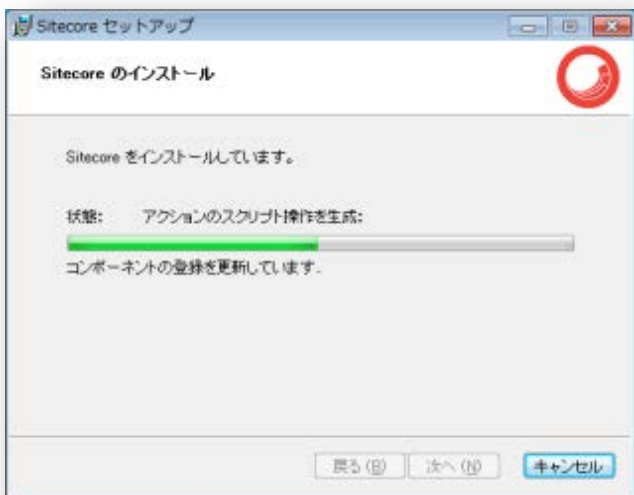
[次へ] をクリックします。

Sitecore をインストールする準備ができました



選択したオプションを確認します。Sitecore CMS をインストールするには、[インストール] をクリックします。

Sitecore をインストールしています



[次へ] をクリックすると、インストールの進捗を示すウィンドウが表示されます。

完了



Sitecore インストール ウィザードが完了しました。[完了] をクリックして、ウィザードを終了します。

3.3 Sitecore のアンインストール

Sitecore のアンインストール プロセスを開始するには、以下のアクションのうちのいずれかを実行します。

- Windows のコントロール パネルを実行し、[プログラムと機能] ウィンドウから、対応するエントリーを見つけて [削除] をクリックします。



- **Sitecore 6.X.X rev.XXXXXX.exe** アプリケーションを起動し、[Sitecore Instance の追加と削除] ステップで、[既存のインスタンス] チェック ボックスをオンにします。



Sitecore のアンインストールが終わったら、SQL Server および IIS サービスを適切に再起動します。

3.4 トラブルシューティング

インストール プログラムでエラーが発生した場合

インストール プログラムが正常に動作しない場合、ログ ファイルをアーカイブして、サポート要求に添付します。

I[Sitecore をインストールする準備ができました] ダイアログ ボックスの [インストール] をクリックした後にインストール プログラムが失敗した場合、ログ ファイルが%TEMP%\SitecoreInstaller.log に自動的に作成されます。

メモ

ログ ファイルは、インストールのたびに作成されます。このため、インストールに失敗した直後に、ログ ファイルをコピーする必要があります。コピーしない場合、ログ ファイルが上書きされます。

SQL Server 使用中の「Database '...' cannot be upgraded」エラー メッセージ

SQL Server を使用するとインストーラーが「Database '...' cannot be upgraded」というエラー メッセージを返す場合は、SQL Server アプリケーションを実行するように設定されたユーザー アカウントが Web サイト ルート フォルダーに対して完全なアクセス権限を持つ必要があります。通常、SQL Server アプリケーションは、NETWORK SERVICE アカウントのコンテキストで動作します。

第 4 章

.ZIP ファイルからのインストール

この章では、Web サイトのルートにある ZIP アーカイブを使用して Sitecore をインストールする方法について説明します。ZIP アーカイブは、次のページからダウンロードできます。

<http://sdn.sitecore.net/Resources/Sitecore%206.aspx>

この章には次のセクションがあります。

- インストール プロセスの概要
- フォルダーおよびレジストリのアクセス許可の設定
- IIS の設定
- Microsoft SQL Server の設定
- Oracle データベースのストレージの設定
- Sitecore のアンインストール (ZIP からインストールした場合)

4.1 インストール プロセスの概要

このセクションでは、Sitecore CMS サイトのルートにある ZIP アーカイブから Sitecore をインストールする方法について説明します。

Sitecore CMS の ZIP アーカイブは、次のページからダウンロードできます。

<http://sdn.sitecore.net/Resources/Sitecore%206.aspx>

Sitecore のインスタンスをインストールするには、次の手順に従います。

1. Microsoft .NET Framework V3.5 または 4 をインストールしてください。
2. プロジェクトの親ディレクトリのパスを選択します (例: C:\InetPub\ProjectName.)。
3. .zip アーカイブを展開して、次のフォルダーを作成します。
C:\InetPub\ProjectName\Website
C:\InetPub\ProjectName\Data
C:\InetPub\ProjectName\Databases
4. 許可を設定します (**セクション 4.2、「フォルダーおよびレジストリのアクセス許可の設定」**を参照)。
5. 適切な license.xml ファイルを、/Data フォルダーに配置します。/Data フォルダーの場所は、web.config ファイルの次の設定により決まります。

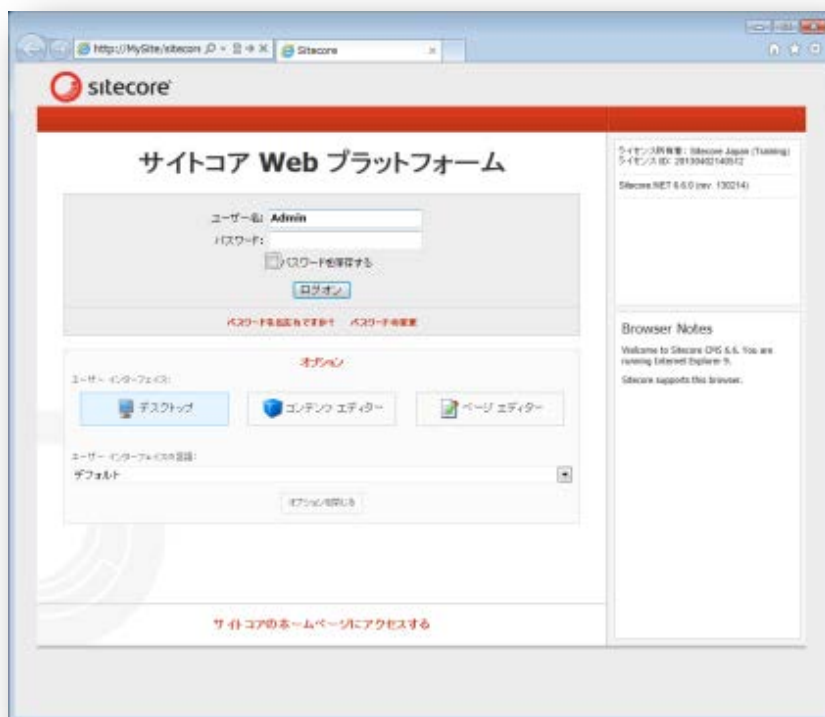
```
<sc.variable name="dataFolder" value="/data"/ >
```


この設定を、フォルダーの絶対パスに変更する必要があります (例: C:\InetPub\ProjectName\Data)。
6. SQL Server を実行する場合は、/Databases フォルダーにある SQL データベースを SQL Server に接続します。
7. SQL Server を実行する場合は、/Website/App_Config/ フォルダーにある ConnectionStrings.config ファイルを編集します。各データベースの行に適切な値を入力します。以下に例を示します。

```
<add name="core" connectionString="user id=_sql_server_user_;password=_user_password_;Data Source=_sqlserver_;Database=_core_database_name_" />
```
8. IIS で、Web サイトを設定します (**セクション 4.3、「IIS の設定」**を参照)。
9. Internet Explorer ブラウザーを設定します (**『Internet Explorer 設定リファレンス』**を参照)。
10. ブラウザーを開始し、次のアドレスをアドレス バーに入力します。

<http://ProjectName/sitecore>

Sitecore のログイン画面が表示されます。



Admin ユーザーのデフォルトのパスワードは「b」です。

4.2 フォルダーおよびレジストリのアクセス許可の設定

このセクションでは、Sitecore CMS が正常に動作するために必要な NTFS のフォルダーやファイルのアクセス許可、および Windows レジストリのアクセス許可について説明します。NTFS のアクセス許可やレジストリのアクセス許可を編集する方法に関する具体的なアドバイスについては、[セクション7.1、「サーバーの設定」](#)、MSDN の Web サイト、および Windows のヘルプ アプリケーションを参照してください。

4.2.1 匿名要求を実行するためのファイル システムのアクセス許可

ブラウザーの特定の種類の要求（通常は、ディレクトリの参照や静的リソースの要求）は、匿名のインターネット ユーザー アカウントのアクセス許可を使用して実行されます。このアカウントには、/Website フォルダーにあるすべてのファイル、フォルダー、およびサブフォルダーへの "読み取り" 許可が必要です。

次の表に、IIS の異なるバージョンで使用されるこのアカウントのデフォルト名を示します。

IIS のバージョン	デフォルトの匿名インターネット ユーザー アカウント名
5、6	IUSR_*, アスタリスクはコンピューター名を表す。
7、7.5	IUSR

匿名要求の処理にデフォルトの IUSR アカウントを使用しないように IIS を設定した場合、または Web サイトについて匿名の認証を有効にしない場合、前述のアクセスを対応するアカウントに許可する必要があります。

4.2.2 ASP.NET の要求を実行するためのファイル システムのアクセス許可

ASP.NET のリソースに対する要求、およびアプリケーション内で動作するすべての .NET コードは、Web サイトのアプリケーション プールの ID として設定されたアカウントのアクセス許可を使用して実行されます。このアカウントには、/Website フォルダーおよび /Data フォルダーにあるすべてのファイル、フォルダー、およびサブフォルダーへの "変更" 許可が必要です。

次の表に、IIS の異なるバージョンで ASP.NET の要求処理に使用されるデフォルトのアカウントを示します。

IIS のバージョン	デフォルトの ASP.NET アカウント名
5	ASPNET
6、7	NETWORK SERVICE
7.5	AppPoolIdentity

IIS 6 以降のバージョンでは、ASP.NET の要求処理に使用するユーザー アカウントを変更できます。

ASP.NET の要求処理に別のユーザー アカウントを選択した場合、このアカウントに前述のアクセスを許可する必要があります。

メモ

アプリケーション プール ID、および特に AppPoolIdentity アカウントへのアクセスの許可については、次の記事を参照してください。<http://learn.iis.net/page.aspx/624/application-pool-identities/>

4.2.3 システム フォルダー用のファイル システムのアクセス許可

ASP.NET の要求処理に使用する .NET ランタイムおよび ASP.NET リソースをロードするには、Sitecore CMS アプリケーションをホストするワーカー プロセスが、Windows OS および .NET Framework の一部としてインストールされた複数のシステム ファイルやフォルダー (Sitecore CMS の一部として配布されたものではない) にアクセスする必要があります。

これらのアクセス権限の多くは、IIS によりすべての ASP.NET アプリケーションに自動的に付与され、これにより、アプリケーション プール ID アカウントが "IIS_IUSRS" セキュリティ グループ (IIS 6 では IIS_WPG) のメンバーになります。

ただし、特定の環境では、次のシステム の場所に対し、アプリケーション プール ID のアクセスを手動で許可する必要があります。

デフォルトの場所	必要なアクセス許可	コメント
%WINDIR%\temp	変更	
%WINDIR%\Globalization	変更	.NET Framework がカスタム言語を正しく登録するために必要
%PROGRAMDATA%\Microsoft\Crypto	変更	データの暗号化/復号化に使用する暗号化キーの保存に必要

メモ

ASP.NET ユーザーおよび IUSR_* ユーザーのいずれかまたはその両方に、Sitecore CMS をインストールするために temp フォルダーに対する変更のアクセス権が必要です。

上記の変数のデフォルト値を次の表に示します。

変数	デフォルト値
%WINDIR%	C:\Windows
%PROGRAMDATA%	C:\Documents and Settings\All Users (IIS 5/6) C:\ProgramData (IIS 7 以降)

メモ

IIS の組み込みグループおよびアカウントについては、<http://www.iis.net/learn/get-started/planning-for-security/understanding-built-in-user-and-group-accounts-in-iis> を参照してください。

4.2.4 SQL Server ファイル用のファイル システムのアクセス許可

SQL Server を使用する場合、SQL サーバー アプリケーションを実行するために設定するユーザー アカウントには、MDF および LDF のデータベース ファイルを含む /Databases フォルダーへの "フル アクセス" 許可が必要です。通常、SQL サーバー アプリケーションは、NETWORK SERVICE アカウントのコンテキスト内で動作します。

4.2.5 Windows のレジストリへのアクセス許可

Sitecore CMS には、Sitecore アプリケーションのモニターとトラブルシューティングに使用できる Windows のパフォーマンス カウンターの読み取りと更新を行う組み込み機能があります。この機能は、Windows のレジストリ キーにアクセスする必要があります。このアクセスを許可するには、アプリケーション プール ID を組み込みの "Performance Monitor Users" グループのメンバーにします。

メモ

必要なレジストリへのアクセスが許可されない場合、アプリケーションが Windows のパフォーマンス カウンターにアクセスしようとするときに「レジストリ キー "グローバル" へのアクセスが拒否されました」のエラーが Sitecore のログ ファイルに書き込まれます。

このエラーを防ぐには、Sitecore によるパフォーマンス カウンターの更新を防止する必要があります。このためには、web.config ファイルの "Counters.Enabled" 設定を "false" に設定します。

ユーザー グループへのアカウントの追加

Windows アカウントをユーザー グループに追加するには、net localgroup コマンドを使用します。

たとえば、"NETWORK SERVICE" アカウントを "Performance Monitor Users" グループに追加するには、Sitecore CMS Web アプリケーションをホストするサーバーで、次のコマンドを実行します。

```
netlocalgroup "Performance Monitor Users" /add "NETWORK SERVICE"
```

変更内容を有効にするには、IIS をリセットする必要があります。

net localgroup コマンドの詳細については、http://www.microsoft.com/resources/documentation/windows/xp/all/proddocs/en-us/net_localgroup.mspx を参照してください。

4.3 IIS の設定

以降のセクションでは、Sitecore CMS 用に、異なるバージョンの IIS (バージョン 5、6、7、および 7.5) を設定する方法を説明します。

次のリストに、どのオペレーティング システムがどの IIS のバージョンを使用するかを示します。

- IIS 5 – Windows XP
- IIS 6 – Windows Server 2003
- IIS 7 – Windows Server 2008、Windows Vista
- IIS 7.5 – Windows Server 2008 R2、Windows 7

4.3.1 IIS 7

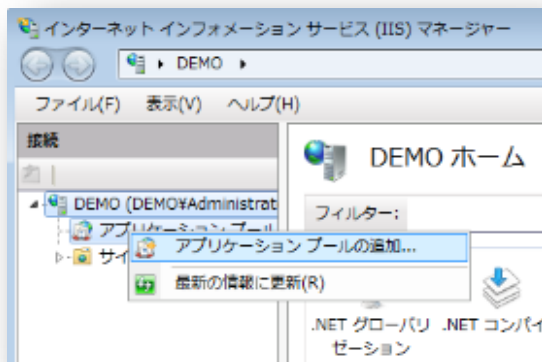
このセクションでは、IIS 7 および 7.5 の手順を説明します。

アプリケーション プールの作成

このセクションでは、IIS7 または IIS7.5 (Windows 7、Windows Server 2008) に Sitecore のアプリケーション プールを作成する方法を説明します。

アプリケーション プールを作成するには、次の手順に従います。

1. **IIS マネージャー**を開始します。
2. **[接続]** パネルの **[アプリケーション プール]** をクリックします。
3. **[アプリケーション プール]** を右クリックし、**[アプリケーション プールの追加]** をクリックします。



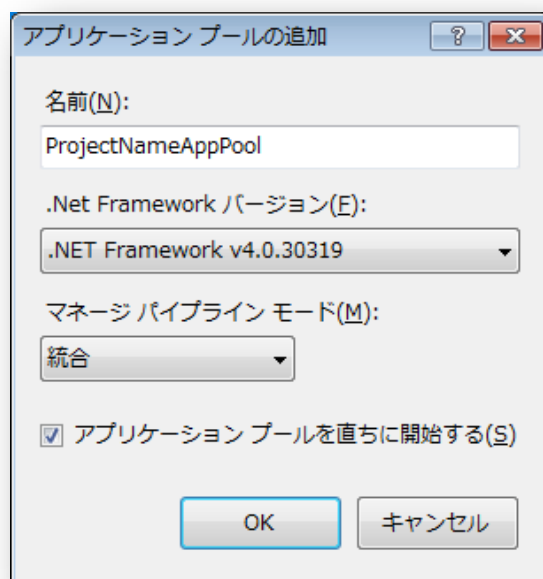
- 表示されたダイアログに、次の値を入力します。

名前: ProjectNameAppPool

.NET Framework バージョン:2.0.XXXXX または 4.0 XXXXX

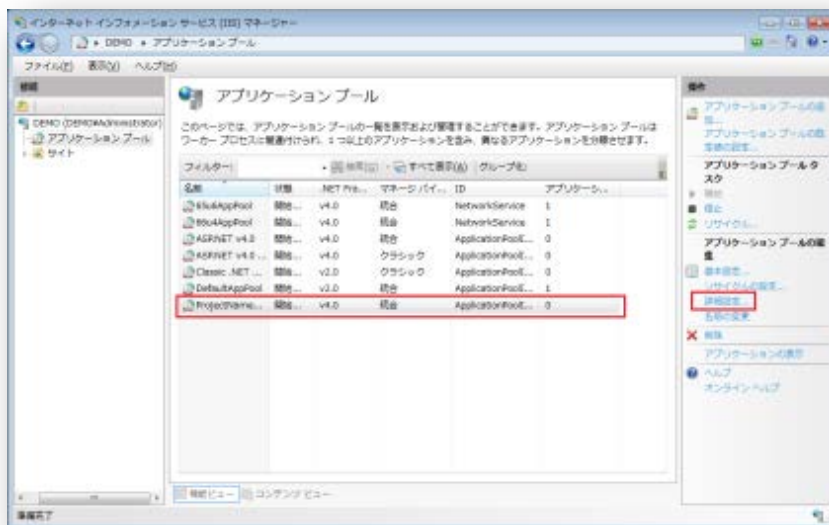
マネージ パイプライン モード: 統合.

[OK] をクリックします。



- 作成したアプリケーション プールをクリックします。

6. [操作] パネルの [詳細設定] をクリックします。



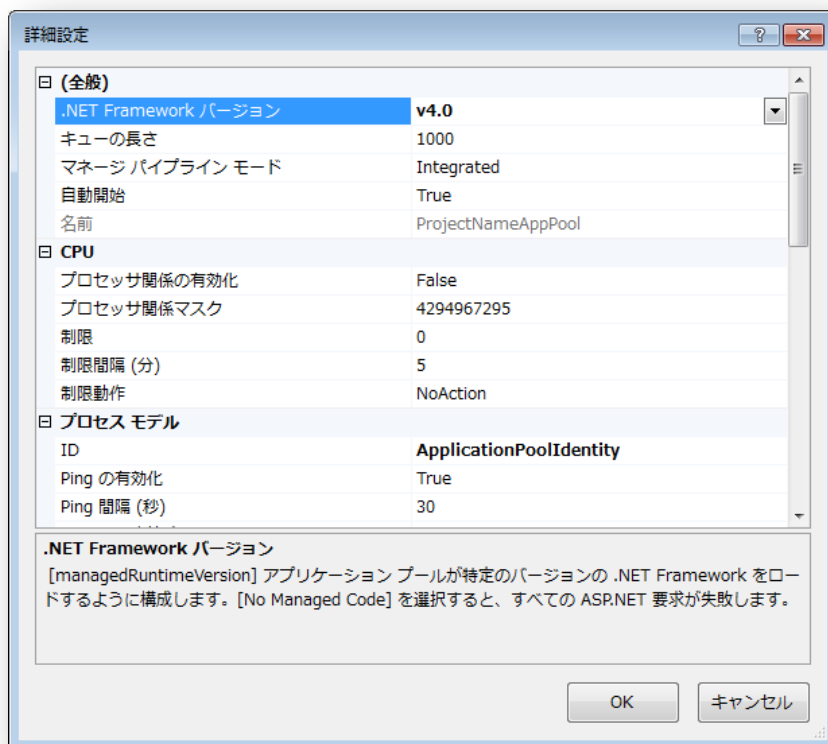
7. [詳細設定] ダイアログボックスで、次の項目を設定します。

[.NET Framework バージョン] を [v4.0] に設定します。

[ID] 設定を「ApplicationPoolIdentity」または「NetworkService」と呼ばれる初期登録アカウントに設定します。

[ワーカー プロセスの最大数] が "1" に設定されていることを確認します。

[ユーザー プロファイルの読み込み] を [True] に設定します。

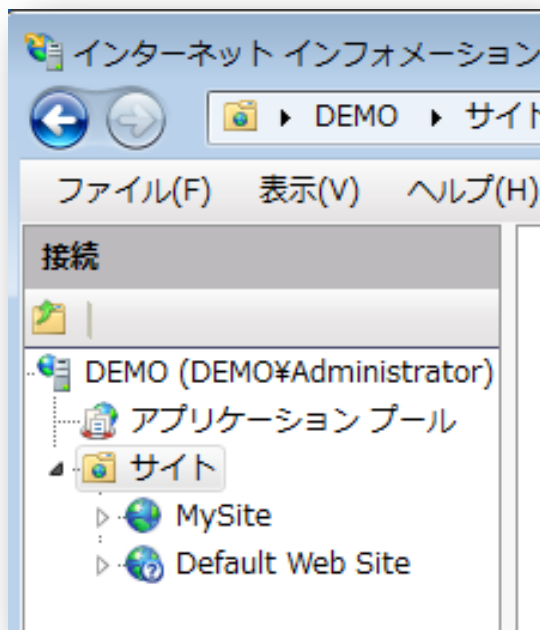


Web サイトの作成

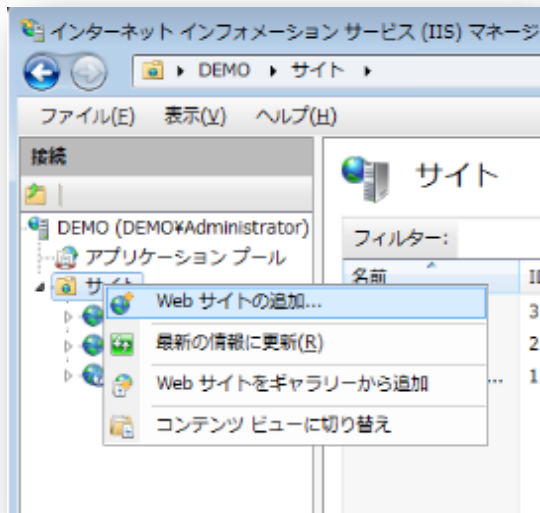
Web サイトを設定するには、次の手順に従います。

1. IIS マネージャーを開始します。

2. [接続] パネルの [Web サイト] を展開します。



3. [サイト] を右クリックし、[Web サイトの追加] をクリックします。



4. **[Web サイトの追加]** ダイアログ ボックスの必須ボックスに値を入力します。以下に例を示します。

サイト名: ProjectName

アプリケーション プール: ProjectNameAppPool

物理パス: C:¥InetPub¥ProjectName¥Website

ホスト名: Projectname

[OK] をクリックします。



5. C:¥Windows¥System32¥drivers¥etc にある hosts ファイルに、次の行を追加します。

```
127.0.0.1    projectname
```

これで、ブラウザーにアドレス「http://projectname」を入力して、Web サイトにアクセスできます。

匿名ユーザーのアクセスの制限

匿名ユーザーが次のフォルダーにアクセスするのを阻止する必要があります。

- /App_Config
- /sitecore/admin
- /sitecore/debug

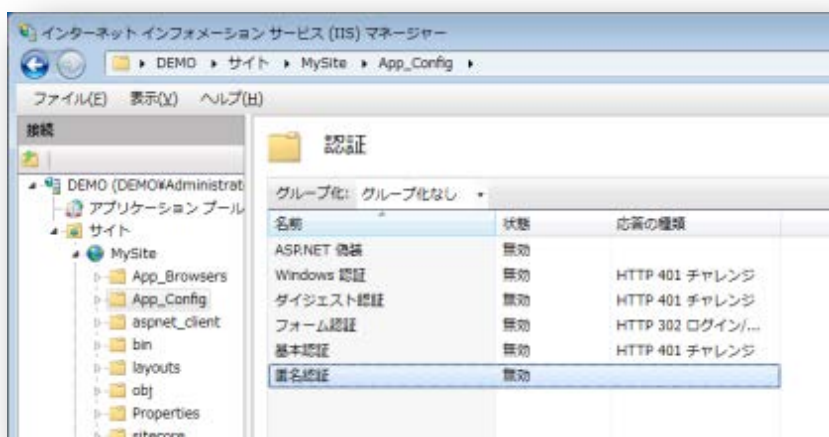
- /sitecore/shell/WebService

たとえば、/App_Config フォルダへの匿名アクセスを制限するには、次の手順に従います。

1. IIS を開きます。
2. **[接続]** パネルでお使いの Sitecore サイトを参照し、/App_Config フォルダをクリックします。



3. **[App_Config ホーム]** パネルの **[認証]** をダブルクリックして、このフォルダの認証設定を構成します。
4. **[認証]** パネルで、**[匿名認証]** が無効になっていることを確認します。



5. セキュリティ保護する他のフォルダについて、手順 2 ~ 4 を繰り返します。

6. IIS を再起動します。

4.3.2 IIS 6

このセクションでは、IIS 6 の手順を説明します。

以下の手順を実行して、既存のサイトを設定するか、IIS に新しい Web サイトを作成します (Windows 2003 のみ)。

メモ

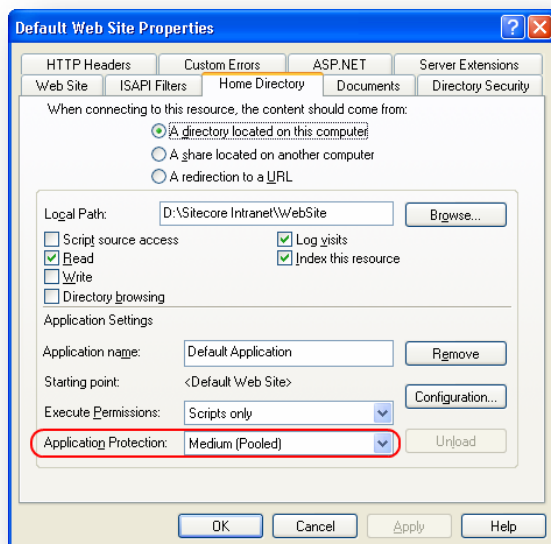
Sitecore 用に仮想ディレクトリを作成しないでください。Sitecore は仮想ディレクトリからは操作できません。

1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開きます。

Windows 2000 または Windows XP を実行している場合は、[コントロール パネル]、[管理ツール]、[インターネット インフォメーション サービス] をクリックし、IIS 用の Microsoft 管理コンソールを開きます。

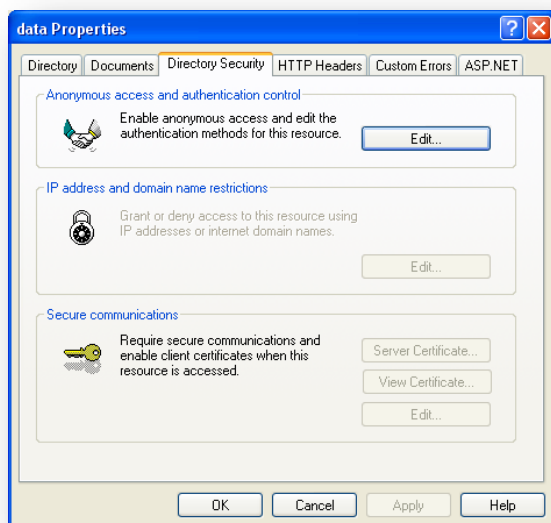
Windows 2003 を実行している場合は、[コントロール パネル]、[管理ツール]、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] をクリックし、IIS 用の Microsoft 管理コンソールを開きます。

2. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、[Web サイト] を展開します。
 - Windows XP: [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
 - Windows 2000 Server、Windows 2003 Server:新しい Web サイトを作成します。
3. [ホーム ディレクトリ] タブで、[ローカル パス] フィールドに、フォルダーを入力または移動します (例:)。
4. [ASP.NET] タブで、.NET Framework バージョン 2.0 または 4.0 を選択します。
5. [アプリケーション保護] フィールドで、[中 (プール)] を選択します。

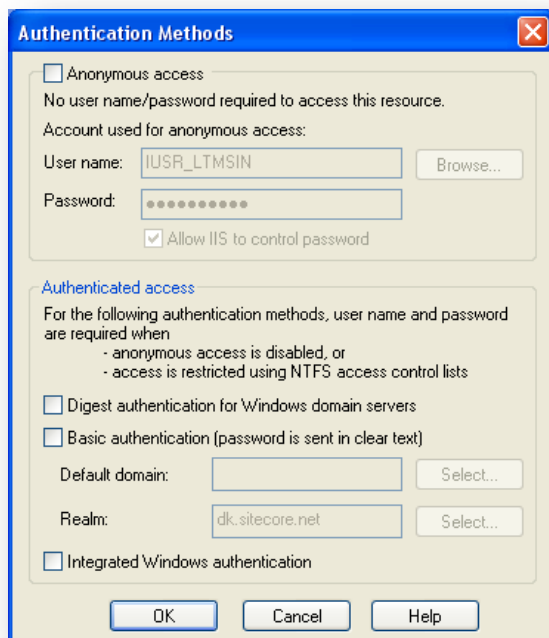


[高 (分離プロセス)] は選択しないでください。過大なキャッシングが発生します。

6. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、[既定の Web サイト] から、/data フォルダーを選択し、[プロパティ] をクリックしてこのフォルダーの [プロパティ] ウィンドウを開きます。



7. [ディレクトリ セキュリティ] タブの [Anonymous access and authentication control] セクションで、[編集] をクリックします。[認証方法] ウィンドウが表示されます。



8. [認証方法] ダイアログ ボックスで、[匿名アクセス] チェック ボックスがオフになっていることを確認します。
9. 以下のフォルダーとファイルに対してこの手順を繰り返します。
/sitecore/admin/sitecore/debug
10. IIS を再起動します。

Windows 2003 を実行している場合:

1. [パフォーマンス] タブの適切なアプリケーション プールに対して [プロパティ] ダイアログ ボックスを開き、ワーカー プロセスの最大数が ALWAYS 1 であることを確認します。

複数プロセッサ サーバーでは、OS/IIS をインストールするときに、この値が 1 より大きく自動的に設定されることがあります。

したがって、これらのサーバーはこの設定が「1」より大きい可能性が高いので特に確認が重要です。
2. IIS を再起動します。

Web サイトの作成

Web サイトを作成するには、次の手順に従います。

1. **インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー**を開始します。
2. **[インターネット インフォメーション サービス]** ウィンドウの **[Web サイト]** を展開します。
3. 新しい Web サイトを作成します。
4. 作成した Web サイトを右クリックして、**[プロパティ]** をクリックします。
5. **[ホーム ディレクトリ]** タブの **[ローカル パス]** ボックスに、WebSite フォルダーのパスを入力します (例: C:¥InternetPub¥ProjectName¥WebSite)。
6. **[アプリケーション プール]** ボックスで、Sitecore 用に設定したアプリケーション プールをクリックします。

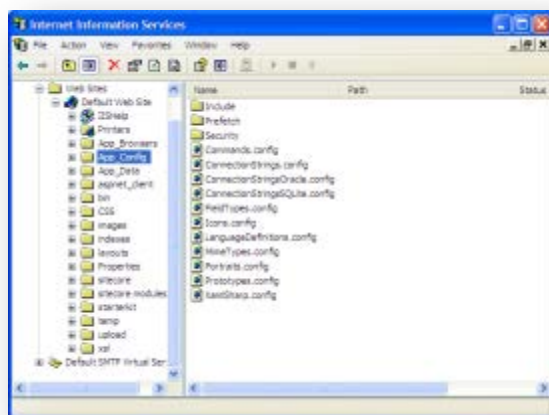
匿名ユーザーのアクセスの制限

匿名ユーザーが次のフォルダーにアクセスするのを阻止する必要があります。

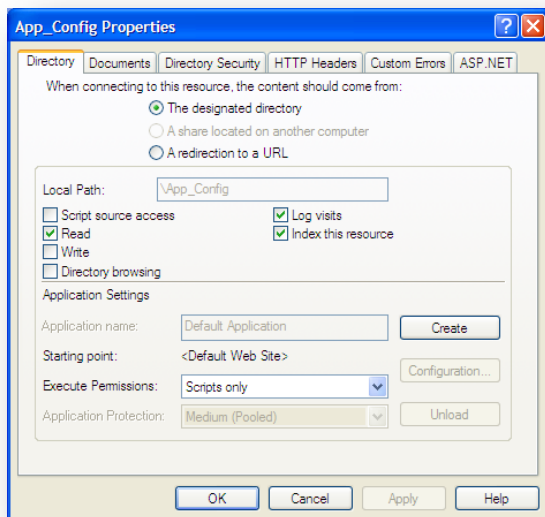
- /App_Config
- /sitecore/admin
- /sitecore/debug
- /sitecore/shell/WebService

たとえば、/App_Config フォルダーへの匿名アクセスを制限するには、次の手順に従います。

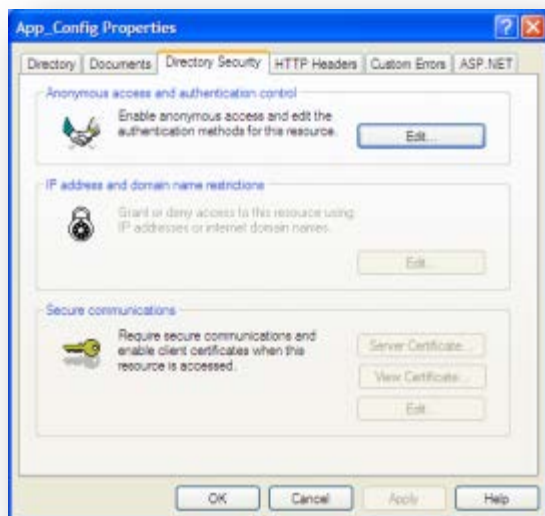
1. IIS を開きます。
2. Web Sites¥Default Web Site¥App_Config フォルダーに移動します。



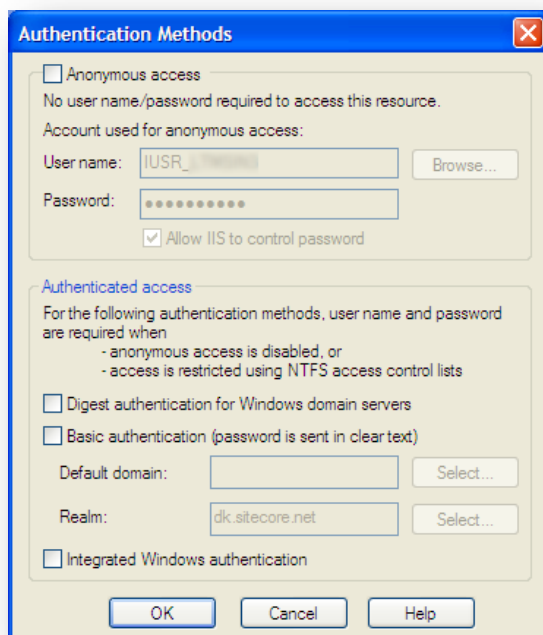
3. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、App_Config フォルダーを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



4. [App_Config のプロパティ] ウィンドウの [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。



5. [匿名アクセスおよび認証コントロール] セクションの [編集] をクリックします。



6. [認証方法] ウィンドウの [匿名アクセス] チェック ボックスがオフになっていることを確認します。

このプロセスを他のフォルダーについて繰り返し、IIS を再起動します。

メモ

以前のバージョンから Sitecore 6 にアップグレードしたときに指示に従った場合、旧ファイルをすべて削除しています。ただし、アップグレード指示に従わなかった場合、rest.aspx ファイルへの匿名アクセスを阻止する必要があります。このファイルは、/sitecore フォルダーに保存されています。

4.3.3 IIS 5

このセクションでは、IIS 5 の手順を説明します。

ホーム ディレクトリの設定

Web サイトのホーム ディレクトリを設定するには、次の手順に従います。

1. インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開始します。
2. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウの [Web サイト] を展開します。
3. [既定の Web サイト] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [ホーム ディレクトリ] タブの [ローカル パス] ボックスに、WebSite フォルダーのパスを入力します (例: C: ¥InetPub¥ProjectName¥WebSite)。
5. [ASP.NET] タブで、.NET Framework バージョン 2.0 または 4.0 を選択します。

匿名ユーザーのアクセスの制限

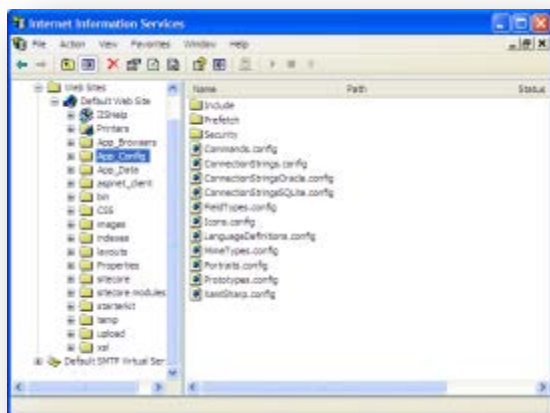
匿名ユーザーが次のフォルダーにアクセスするのを阻止する必要があります。

- /App_Config
- /sitecore/admin
- /sitecore/debug
- /sitecore/shell/WebService

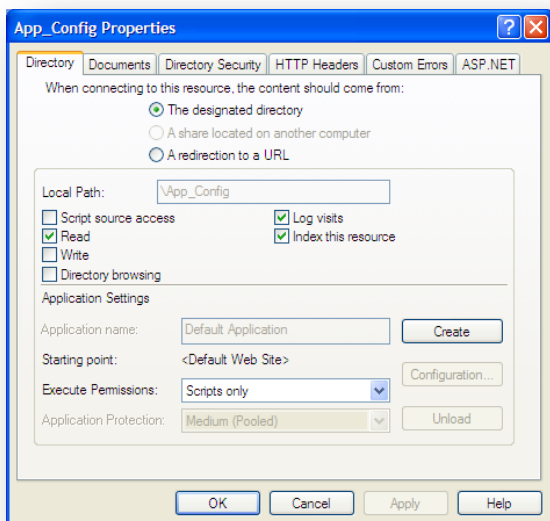
たとえば、/App_Config フォルダーへの匿名アクセスを制限するには、次の手順に従います。

1. IIS を開きます。

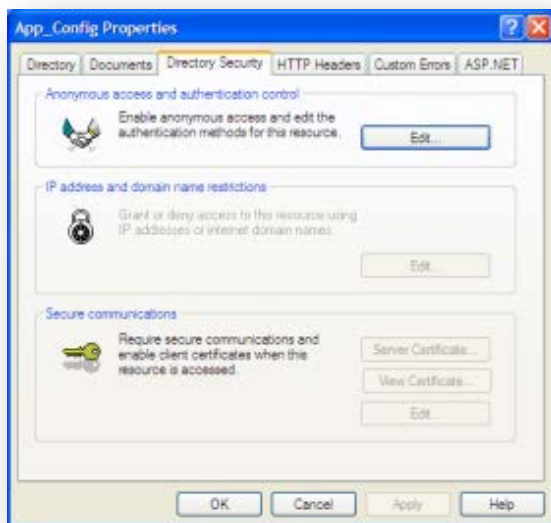
2. Web Sites¥Default Web Site¥App_Config フォルダーに移動します。



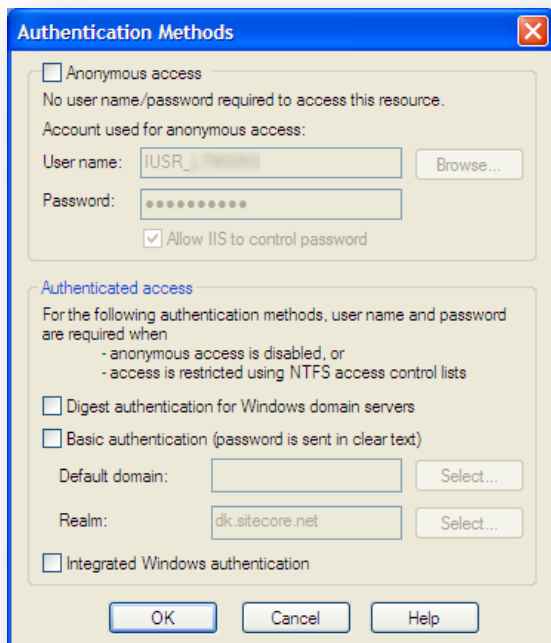
3. [インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウで、App_Config フォルダーを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



4. [App_Config のプロパティ] ウィンドウの [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。



5. [匿名アクセスおよび認証コントロール] セクションの [編集] をクリックします。



6. **[認証方法]** ウィンドウの **[匿名アクセス]** チェック ボックスがオフになっていることを確認します。
7. IIS を再起動します。

このプロセスを、他のフォルダーについて繰り返します。

メモ

以前のバージョンから Sitecore 6 にアップグレードしたときに指示に従った場合、旧ファイルをすべて削除しています。ただし、アップグレード指示に従わなかった場合、rest.aspx ファイルへの匿名アクセスを阻止する必要があります。このファイルは、/sitecore フォルダーに保存されています。

4.4 Microsoft SQL Server の設定

Microsoft SQL Server をインストールするときに、**[混合モード]** 認証 (Windows 認証および SQL Server 認証) をクリックします。

MS SQL をすでにインストール済みであり、セキュリティ認証モードを変更する必要がある場合は、次の記事を参照してください。

<http://technet.microsoft.com/en-us/library/ms188670.aspx>

メモ

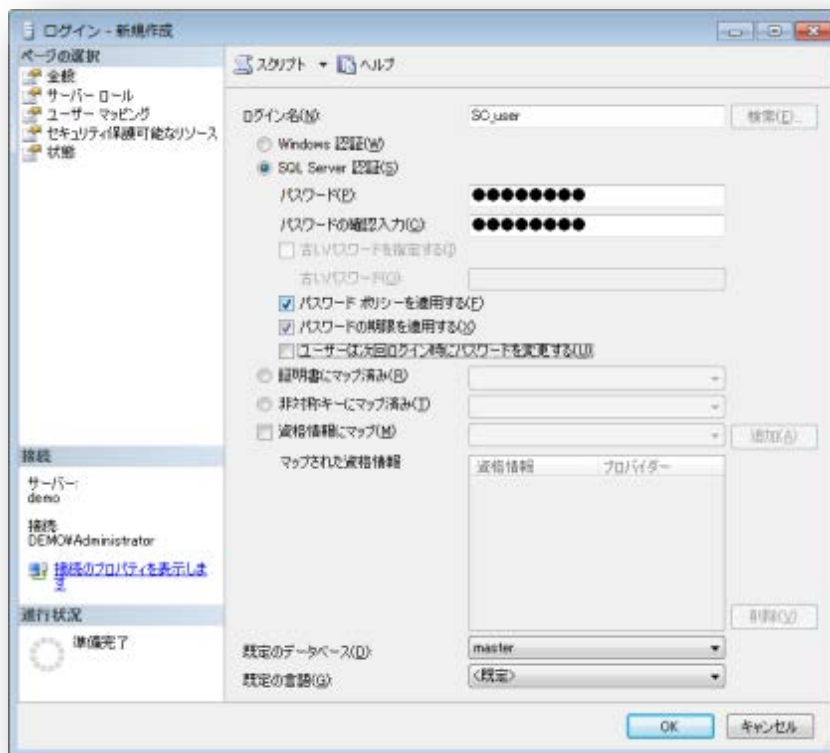
また、Windows 認証を使用して SQL Server に接続することもできます。SQL Server への接続の詳細については、<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/ff647396.aspx> を参照してください。

4.4.1 SQLServer2008 に Sitecore CMS データベースのデータベース アカウントを作成

このセクションでは、必要最低限のアクセス許可を使用して、SQL Server 2008 の下にある Sitecore データベースのデータベース アカウントを作成する方法を説明します。

1. SQL Server Management Studio を開始します。
2. Sitecore のデータベースが接続していることを確認します。
3. SQL Server Management Studio の **[オブジェクト エクスプローラー]** ペインにある **[セキュリティ]** フォルダーを展開します。

4. [ログイン] フォルダーを右クリックし、[新しいログイン] をクリックして新しいログインを作成します。



5. [ログイン - 新規作成] ウィンドウの [全般] ページをクリックし、ログイン名を指定します。
6. [SQL Server 認証] をオンにし、[ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する] チェックボックスをオフにします (このオプションは、一部の Windows オペレーティング システムではサポートされていない)。
7. [ユーザー マッピング] ページをクリックし、[このログインにマップされたユーザー] ボックスで、Sitecore データベースをクリックします。
8. [データベース ロールのメンバーシップ] ボックスで、次のチェック ボックスをオンにします。

"Master" および "Web" のデータベース: db_datareader、db_datawriter、public

Analytics データベース (DMS をインストールしている場合): db_datareader、db_datawriter、public

"core" データベース:

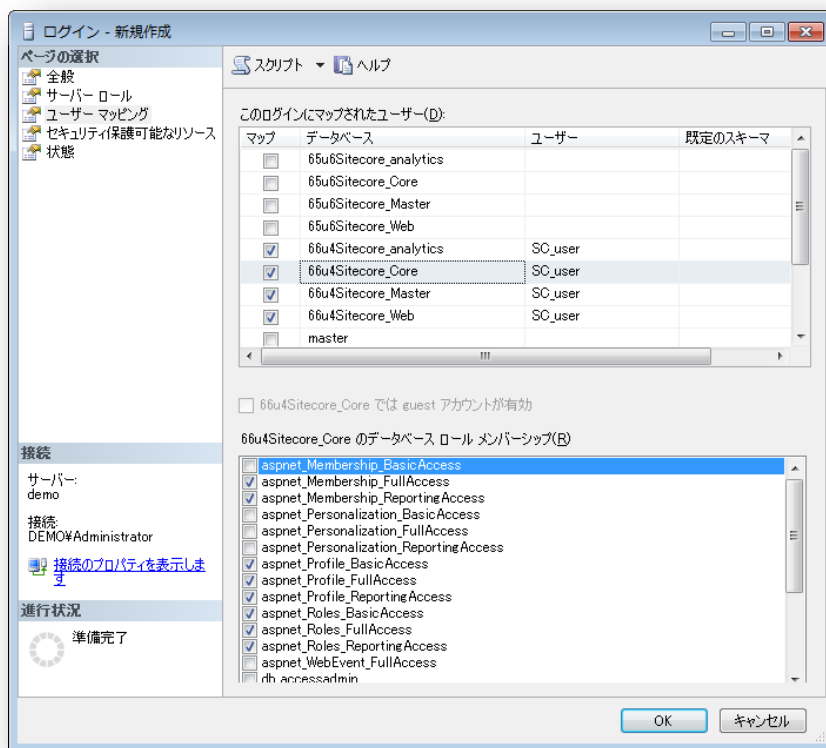
db_datareader

db_datawriter

public

aspnet_Membership_BasicAccess

aspnet_Membership_FullAccess
aspnet_Membership_ReportingAccess
aspnet_Profile_BasicAccess
aspnet_Profile_FullAccess
aspnet_Profile_ReportingAccess
aspnet_Roles_BasicAccess
aspnet_Roles_FullAccess
aspnet_Roles_ReportingAccess

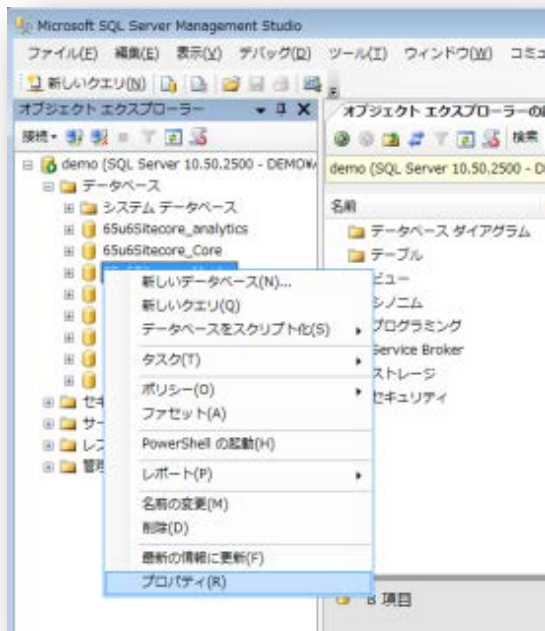


9. [OK] をクリックしてユーザーを作成します。

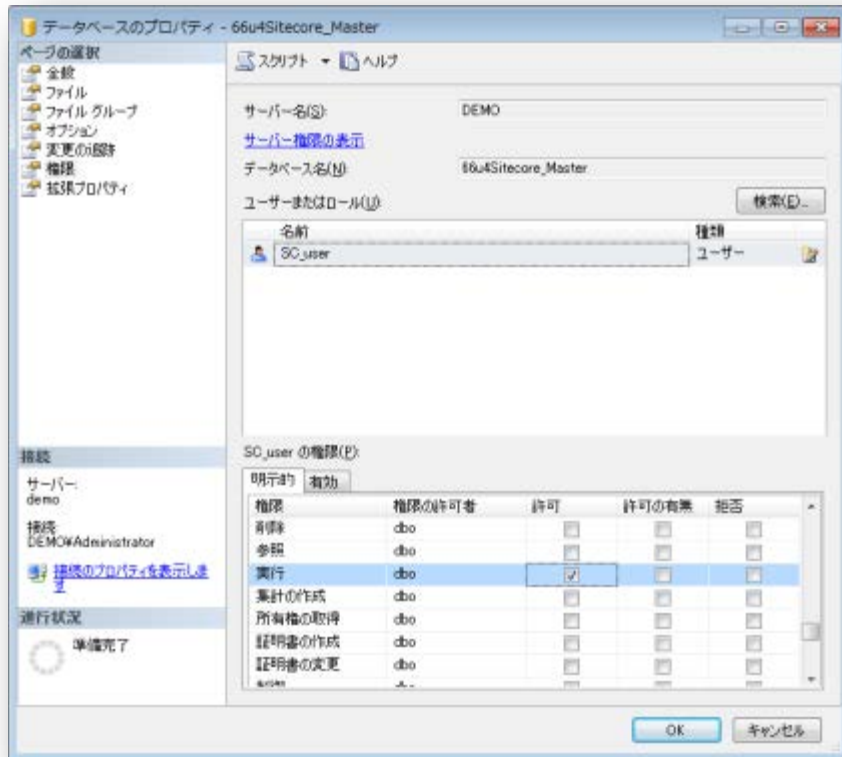
4.4.2 保存したプロシージャへの実行権限の許可

保存したプロシージャに実行権限を許可するには、次の手順に従います。

1. [SQL Server Management Studio] ウィンドウの [データベース] を展開します。
2. [Sitecore データベース] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。



3. [データベースのプロパティ] ウィンドウの [権限] セクションをクリックし、権限を許可するユーザーを選択します。



4. [ユーザーまたはロール] ボックスでユーザーを選択し、[明示的な権限] ボックスの [許可] 列で、ユーザーに "実行" 権限を許可します。

Sitecore DMS をインストールしている場合は、Analytics データベースを含む他の Sitecore CMS データベースに対してこの手順を繰り返します。

4.5 Oracle データベースのストレージの設定

このセクションでは、Sitecore CMS 用に Oracle データベースのストレージを設定する方法を説明します。

4.5.1 Oracle のストレージの設定

このセクションでは、Oracle データベースを使用する Sitecore CMS の設定について、詳しく説明します。

データベース サーバーの準備

データベース サーバーは、Oracle 10g 以降のデータベース インスタンスである必要があります。つまり、次の要件を満たす必要があります。

1. Oracle インスタンスは、共有サーバー モードに設定する必要があります。
2. Oracle インスタンスは、初期段階では 200 MB 以上の空き容量を持つ Sitecore 用の表領域が必要です。Sitecore データベースが増加するにつれて、より多くの容量が必要になります。Oracle データベース サーバー (または Oracle の管理ツールを持つワークステーション PC) で次の手順を実行して、Sitecore CMS 用の Oracle データベースを設定します。
3. Sitecore CMS データベース (*DB.exe 設定実行ファイル、バージョン 6.0.2 以降) をインストールします。別の方法として、インストール済みの Sitecore 6 から /Databases/Oracle フォルダをコピーできます。
4. Sitecore のデータを Oracle データベースにロードします。
 - a. コンピューターの [システムのプロパティ]、[詳細設定]、[環境変数] を順にクリックし、ユーザーレベルの変数を次のように設定します。
DATABASE = PC 上に設定された Sitecore データをホストする Oracle データベース インスタンスの名前
TBS = Sitecore データの表領域の名前
PASSWORD = Oracle インスタンスのシステム ユーザー用のパスワード
PREFIX = ユーザー スキーマの名前およびパスワードに使用する接頭辞 (デフォルト: sc)
 - b. /Databases/Oracle/ フォルダの **createdata.bat** ファイルを起動します。
 - c. DATABASE、TBS、PASSWORD、PREFIX の各変数を環境から削除します。

インストール スクリプトが、%PREFIX%core、%PREFIX%master、%PREFIX%web の 3 つのユーザー スキーマを設定します (デフォルト値はそれぞれ、score、cmaster、cweb)。ユーザーのパスワードは、ユーザー名と同じです。

Web サイト サーバーを設定する手順

次の手順は、Sitecore CMS ファイル システムがホストされる Web サーバーの設定方法を示します。

1. Oracle Database のバージョンと一致する Oracle Client をインストールします。必ず、Oracle Data Provider for .NET 2.0 をインストールしてください。適切な Oracle インスタンス (「データベース サーバーの準備」セクションの説明に従って作成) への接続を追加します。このトピックの詳細については、セクション 7.1.2、「Oracle インスタンスへの接続の追加」を参照してください。

メモ

Oracle Data Provider を 64 ビット環境にインストールする場合は、必ず Oracle Client for Windows x64 を使用してください。

2. Sitecore CMS 6 をインストールします。exe 設定実行ファイルからではなく、ZIP アーカイブから Sitecore をインストールする場合、次の手順に進む前に、dataFolder 設定を行って有効なライセンスの.xml ファイルをデータフォルダーに配置する必要があります。
3. dataFolder 変数の定義を、Web.config から Web.config.Oracle にコピーします。
例: `<sc.variable name="dataFolder" value="c:¥sitecore¥data"/>`
4. Web.config.Oracle の **runtime/assemblyBinding** セクションで、**bindingRedirect** を、システムにインストールした Oracle.DataAccess アセンブリ バージョンに設定します。

- a. [ファイル名を指定して実行] ダイアログ ボックス (Win + R) のコマンド プロンプトで「assembly」コマンドを実行して、グローバル アセンブリ キャッシュを開きます。
- b. お使いの Oracle Client バージョンの Oracle.DataAccess.dll を見つけて右クリックし、[プロパティ] をクリックして、次のいずれかの形式の Version 値をコピーします。
 - i. 10.2.x.x (Oracle Client のバージョンが 10.2.0.2 より前のもの)。
 - ii. 2.102.x.x または 2.111.x.x (Oracle Client のバージョンが 10.2.0.2 以降)。
- c. assemblyBinding 設定を変更します。10.2.0.100 を、お使いのアセンブリのバージョンに変更します。

```
<dependentAssembly>  
  <assemblyIdentity name="Oracle.DataAccess" publicKeyToken="89b483f429c47342"  
  "/>  
  <bindingRedirect oldVersion="9.2.0.401" newVersion="10.2.0.100"/>  
</dependentAssembly>
```

5. 元の Web.config をバックアップし、Web.config.Oracle の名前を Web.config に変更します。

6. /App_Config/ConnectionStringsOracle.config の接続文字列を、有効な Oracle インスタンスを指すように変更します。
 - a. Data Source パラメーターは、Oracle Net Manager で設定したローカルの Oracle インスタンス名を指す必要があります。
 - b. ユーザー名とパスワードを、データベース サーバーにインストールしたものと一致するように調整する必要があります。デフォルトのユーザー名/パスワードは、score/score、scmaster/scmaster、および scweb/scweb です。
7. 通常の Sitecore のインストールと同様に IIS を設定し、Sitecore を実行します。

4.6 Sitecore のアンインストール (ZIP からインストールした場合)

Sitecore をアンインストールする前に、IIS Web サイトを削除するか、別のディレクトリを参照するように更新するか、次のコマンドを実行して IIS を停止します。

```
net stop w3svc.
```

SQL Server のプロセスを停止します。

- SQL Server Express の場合: `net stop "sql server (sqlexpress)"`
- その他すべての SQL Server のエディションの場合: `net stop "sql server (instancename)"`

Sitecore ファイル システムを削除します。

この Sitecore のインスタンスが使用していたデータベースを、リモート サーバーまたはローカル サーバーから削除します。

第 5 章

制限および固有の要件

この章では、さまざまな制限および環境に固有の要件を説明します。

この章には次のセクションがあります。

- OS に固有の要件
- ワーカー プロセスの最大数
- その他

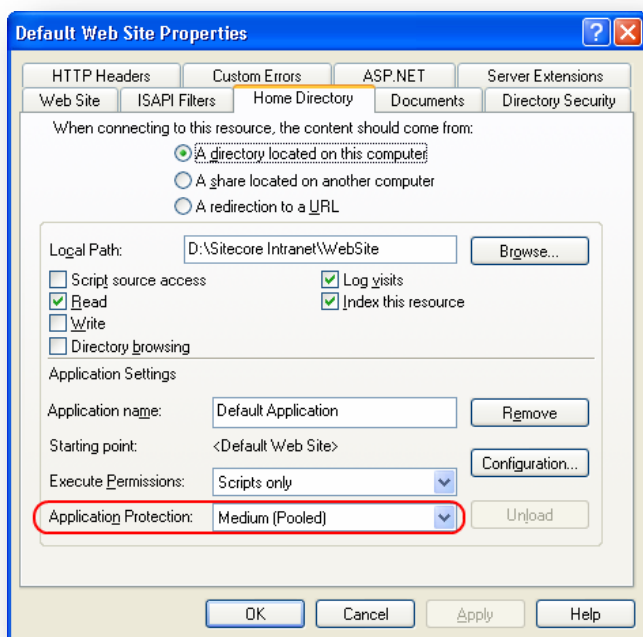
5.1 OS に固有の要件

このセクションでは、オペレーティング システムに関する要件を説明します。

5.1.1 Windows XP

Windows XP を実行している場合、次の設定を行います。

[**アプリケーション保護**] ボックスから [中 (プール)] をクリックします。



Sitecore は、アプリケーション保護の 3 つの各レベルで良好に動作します。[中 (プール)] レベルは、[高 (分離プロセス)] 設定よりも性能が高く、[低] 設定よりもセキュリティが高いため、これは単なる推奨設定です。詳細については、[アプリケーション保護に関する記事 \(英語版\)](#) を参照してください。

5.2 ワーカー プロセスの最大数

Sitecore は、[ワーカー プロセスの最大数] を 2 以上にした設定をサポートしません。この値を「1」に設定する必要があります。

マルチプロセッサ サーバーでは、OS/IIS のインストール時にこの値が自動的に 2 以上に設定されることがあります。このため、このようなサーバーではこの設定が 2 以上である可能性があるので、この設定を確認することが特に重要です。

5.3 その他

このセクションでは、分類されないその他の要件について説明します。

5.3.1 最新アップデートのインストール

Microsoft Update のサイト(<http://windowsupdate.microsoft.com>) で、お使いの Sitecore CMS のホストおよびクライアントのコンピューターのすべてに、該当するサービス パックとセキュリティ アップデートをすべてインストールしてください。

5.3.2 UNC 共有はサポートされない

Sitecore CMS は、UNC 共有ではなく、ローカル ドライブにインストールする必要があります。

5.3.3 Sitecore は仮想ディレクトリから動作できない

Sitecore は仮想ディレクトリから動作できないので、Sitecore の仮想ディレクトリを作成しないでください。

5.3.4 .NET Framework の更新前に IIS をインストールする

Sitecore ホストについて、ASP.NET の設定に関する問題を減らすために、.NET framework のインストールや更新の前に IIS をインストールします。

IIS のインストール前に .NET framework のインストールや更新を行った場合は、ASP.NET のインストールのトラブルシューティング手順が記載された次の記事を参照してください。

<http://www.microsoft.com/technet/prodtechnolog/WindowsServer2003/Library/IIS/187d0e2c-8e89-49ad-a89d-e26e4d76ee68.mspx?mfr=true>

第 6 章

インストール後の手順

この章では、Sitecore CMS のインストール後に推奨される手順を説明します。

この章には次のセクションがあります。

- ASP.NET 4.0 で Sitecore を実行するために必要な Web.config の変更
- Sitecore の Windows 認証
- Windows Authentication for Sitecore

Sitecore を設定して、SQL 接続 (SQL 2008/Windows 2008(R2)) 用の Windows 認証を使用し、connectionStrings.config ファイルからユーザー名とパスワードを効率的に削除することができます。

1. Sitecore が動作しているアプリケーション プールを確認します。[プロパティ] を開き、対応するタブでドメイン ユーザーに ID を設定します。
2. インストール ガイドの「4.4.1 SQL Server 2008 に Sitecore CMS データベースのデータベース アカウントを作成」のセクションに従って、[SQL Server] ボックスでドメイン ユーザーを登録し、ドメイン ユーザーに対して Sitecore データベースのセキュリティ権限を与えます。
3. Sitecore をホストするマシンで、IIS_IUSRS グループにこのドメイン ユーザーを追加します。
4. インストール ガイドの次のセクションに従って、IIS_IUSRS グループに対する権限を調整します。
 - 「4.2.2 ASP.NET の要求を実行するためのファイル システムのアクセス許可」
 - 「4.2.3 システム フォルダー用のファイル システムのアクセス許可」
5. /App_Config/ConnectionStrings.config ファイルを編集し、user id およびpassword パラメーターを trusted_connection=yes オプションで置き換えます。


```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<connectionStrings>
  <add name="core" connectionString="Data
Source=.\Sql2008;Database=Sandbox6_Core;Trusted_Connection=Yes" />
  <add name="master" connectionString="Data
Source=.\Sql2008;Database=Sandbox6_Master;Trusted_Connection=Yes" />
  <add name="web" connectionString="Data Source=.\Sql2008;Database=Sandbox6_Web;Trusted_Connection=Yes" />
</connectionStrings>
```

6. 「aspnet_regiis.exe」および `-ga switch` を使用し、ID を準備してサービス アカウントとして使用できるようにします。
7. 次のセクションに従って、ローカルの「Performance Monitor Users」グループにドメイン サービス アカウントを追加します。「4.2.5 Windows のレジストリへのアクセス許可」

メモ

DMS を使用する場合は、Analytics データベースに対して同じ設定を繰り返す必要があります。Analytics データベースの接続文字列は、次のようになっている必要があります。

```
<add name="analytics" connectionString="Data
Source=<Data-Source>;Database=Sandbox6_Analytics;Trusted_Connection=Yes" />
```

- Microsoft SQL Server データベースのプロパティの設定
- 検索インデックスとリンク データベースの再構築
- キャッシュ設定

6.1 ASP.NET 4.0 で Sitecore を実行するために必要な Web.config の変更

Sitecore CMS には、ASP.NET 3.5 上で Sitecore が動作するように設定された web.config ファイルがあります。

ASP.NET 4.0 上で Sitecore のインスタンスを実行するには、この MSDN 記事のセクション「To manually upgrade an application's Web.config file from the .NET Framework 3.5 to the .NET Framework 4.」に記載されたアクションを実行してください。

6.2 コンテンツの有効期限

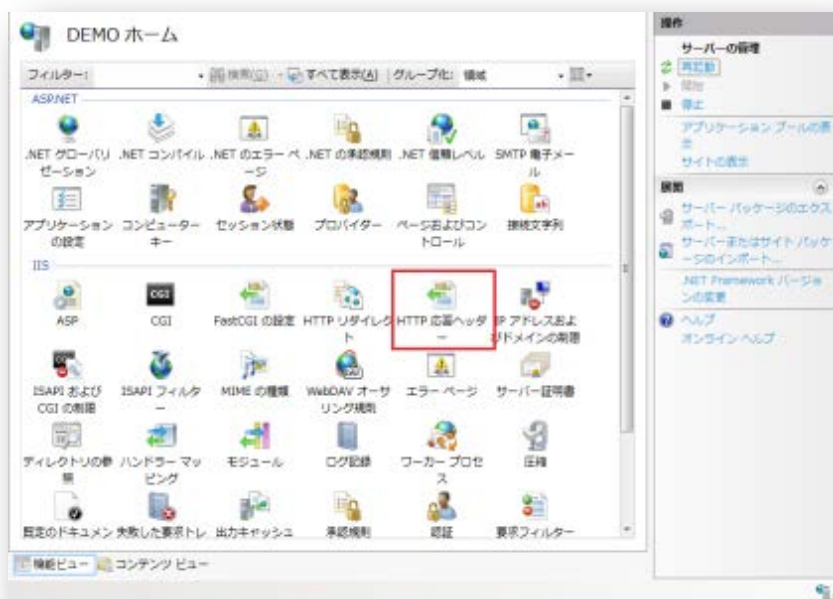
IIS の [期限切れの Web コンテンツ] ヘッダーを設定して、性能を向上させます。

[期限切れの Web コンテンツ] ヘッダー ([共通 HTTP 応答ヘッダーの設定] 内) により、IIS は、Web ページのコンテンツの有効期限後の要求に対して、要求された Web ページの新バージョンを返すかどうかを決定します。IIS は、ユーザーが設定したコンテンツの有効期限を使用して、送信前に各 Web ページにマークを付けます。Web サイトの訪問者のブラウザは、有効期限切れのマークを解釈します。

[期限切れの Web コンテンツ] を [即時] 以外に設定した場合、2 回目のアクセスのロード時間を 50 ~ 70% 短縮できます。この設定は、動的に生成されたコンテンツには影響しません。

IIS 7.x の: [期限切れの Web コンテンツ] ヘッダーを有効にするには、次の手順に従います。

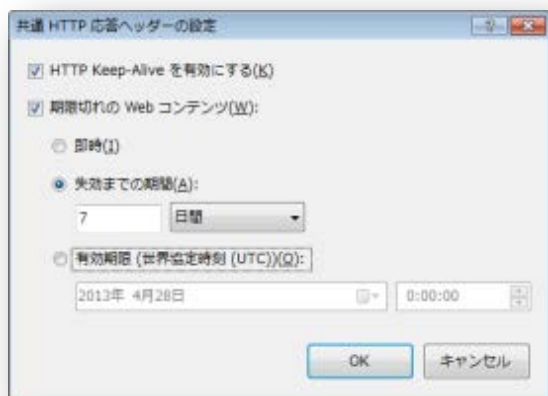
1. IIS マネージャーを開始します。
2. [期限切れの Web コンテンツ] ヘッダーを有効にするサイトを表示します。
3. [IIS] セクションの [HTTP 応答ヘッダー] をダブルクリックします。



4. **[操作]** パネルの **[共通ヘッダーの設定...]** をクリックします。



5. **[期限切れの Web コンテンツ]** チェック ボックスをオンにします。
6. **[失効までの期間]** チェック ボックスをオンにして、日数をデフォルト値 (7) に設定します。



7. 設定を完了したら、**[OK]** をクリックします。

6.3 Windows Authentication for Sitecore

Sitecore を設定して、SQL 接続 (SQL 2008/Windows 2008(R2)) 用の Windows 認証を使用し、connectionStrings.config ファイルからユーザー名とパスワードを効率的に削除することができます。

1. Sitecore が動作しているアプリケーション プールを確認します。[プロパティ] を開き、対応するタブでドメイン ユーザーに ID を設定します。
2. インストール ガイドの「4.4.1 SQL Server 2008 に Sitecore CMS データベースのデータベース アカウントを作成」のセクションに従って、[SQL Server] ボックスでドメイン ユーザーを登録し、ドメイン ユーザーに対して Sitecore データベースのセキュリティ権限を与えます。
3. Sitecore をホストするマシンで、IIS_IUSRS グループにこのドメイン ユーザーを追加します。
4. インストール ガイドの次のセクションに従って、IIS_IUSRS グループに対する権限を調整します。
 - 「4.2.2 ASP.NET の要求を実行するためのファイル システムのアクセス許可」
 - 「4.2.3 システム フォルダー用のファイル システムのアクセス許可」
5. /App_Config/ConnectionStrings.config ファイルを編集し、user id およびpassword パラメーターを trusted_connection=yes オプションで置き換えます。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<connectionStrings>
<add name="core" connectionString="Data
Source=.%sql2008;Database=Sandbox6_Core;Trusted_Connection=Yes" />
<add name="master" connectionString="Data
Source=.%sql2008;Database=Sandbox6_Master;Trusted_Connection=Yes" />
<add name="web" connectionString="Data Source=.%sql2008;Database=Sandbox6_Web;Trusted_Connection=Yes" />
</connectionStrings>
```

6. 「aspnet_regiis.exe」および [-ga switch](#) を使用し、ID を準備してサービス アカウントとして使用できるようにします。
7. 次のセクションに従って、ローカルの「Performance Monitor Users」グループにドメイン サービス アカウントを追加します。「4.2.5 Windows のレジストリへのアクセス許可」

メモ

DMS を使用する場合は、Analytics データベースに対して同じ設定を繰り返す必要があります。Analytics データベースの接続文字列は、次のようになっている必要があります。

```
<add name="analytics" connectionString="Data
Source=<Data-Source>;Database=Sandbox6_Analytics;Trusted_Connection=Yes" />
```

6.4 Microsoft SQL Server データベースのプロパティの設定

Microsoft SQL Server データベースのプロパティの中には、正しく設定するとパフォーマンスが向上するものがあります。

- **互換性レベル**

互換性レベルは SQL の構文とクエリの解析に影響し、パフォーマンスには影響しません。[互換性レベル] を [SQL Server 2008(100)] の値に設定すると、多数のスクリプト/コマンドで新しい T-SQL 機能を活用できます。

- **自動終了**

MS SQL Server がデータベースを開くときに、リソースが割り当てられ、その状態が維持されます。ロック、バッファ、セキュリティ トークンなどのすべてにメモリが割り当てられます。これらの動作には時間が掛かります。[自動終了] プロパティは、これらのリソースの処理方法を定義します。[自動終了] プロパティを [TRUE] または [オン] に設定すると、最後の接続の終了時にこれらのリソースの割り当てが解除されます。短い時間 (0.1 秒以下) のうちに新しい接続が確立されると、これらすべてのリソースを再度アクティブにする必要があります。[自動終了] プロパティを [FALSE] または [オフ] に設定すると、この動作が防止されます。

- **自動圧縮**

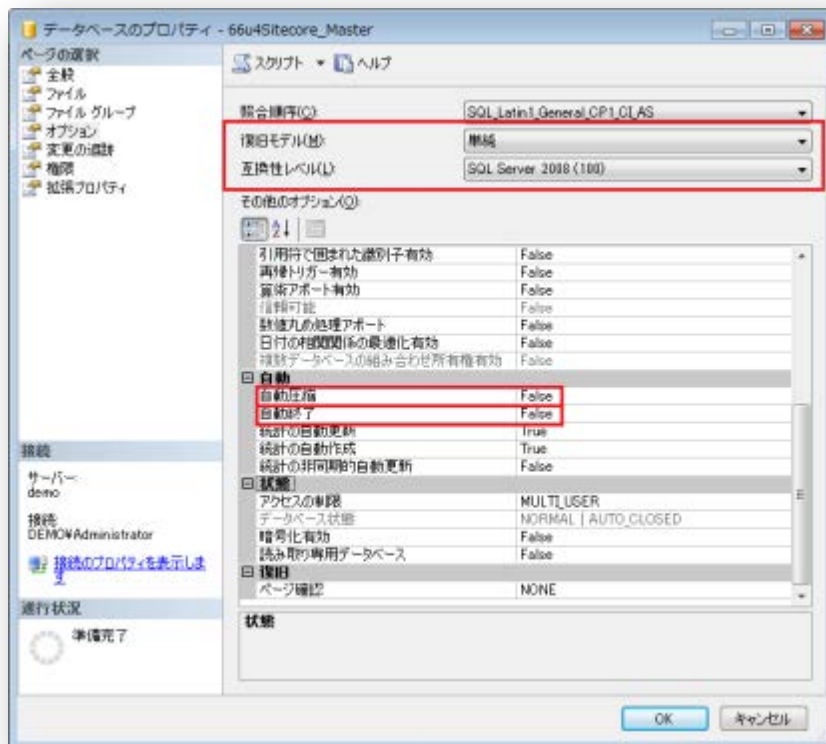
[自動圧縮] プロパティは、呼び出されたときに多数のリソースを使用します。呼び出し中はユーザーが制御することはできません。[自動圧縮] と [自動拡張] を組み合わせた場合、継続的なデータベースの拡張と圧縮のスパイラルに陥り、貴重なリソースを他のデータベース タスクから奪うだけでなく、断片化の問題も発生する場合があります。データベースまたはファイルに対して SHRINK コマンドを実行する必要がある場合は、スクリプト、コマンド、またはスケジュール済みのメンテナンス プランから実行します。[自動圧縮] プロパティを [FALSE] または [オフ] に設定すると、この機能が無効になります。

- **復旧モデル**

[単純復旧モデル] では、MS SQL Server はトランザクション ログに最小限の情報を記録します。MS SQL Server は基本的に、トランザクション ログが 70 % に達するか、トランザクション ログのアクティブな部分が [復旧間隔] のサーバー レベル設定に指定された時間で復旧可能なサイズを超えた場合は常に、トランザクション ログを切り捨てます。[復旧モデル] を [単純] に設定すると、[完全] や [一括ログ] に比べてオーバーヘッドが最小になり、これは Sitecore CMS データベースに必要なパフォーマンス要件にとって重要です。

これらのプロパティを設定するには、次の手順に従います。

1. MS SQL Server Management Studio を開始します。
2. オブジェクト エクスプローラーで、[CMS Master] データベースを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
3. [オプション] ページをクリックし、次の画像に示すようにパラメーターを設定します。



4. [互換性レベル] ボックスの [SQL Server 2008(100)] をクリックします。
5. [自動終了] プロパティを **FALSE** に設定します。
6. [自動圧縮] プロパティを **FALSE** に設定します。
7. [復旧モデル] ボックスで、[単純] をクリックします。
8. [OK] をクリックします。

この手順を、CMS Core と Web のデータベースについて繰り返します。

6.5 検索インデックスとリンク データベースの再構築

次の手順は、Web サイトのルートにある ZIP アーカイブを使用して Sitecore をインストールした場合にのみ実行します。core データベースの検索インデックス、およびクイック検索インデックスを再構築する必要があります。

検索インデックスを再構築するには、Sitecore のデスクトップのログインして、[コントロール パネル]、[データベース]、[検索インデックスを再構築する] を順にクリックします。使用できるデータベースをすべて選択します。

リンク データベースを再構築するには、Sitecore のデスクトップのログインして、[コントロール パネル]、[データベース]、[リンク データベースの再構築] を順にクリックします。使用できるデータベースをすべて選択します。

6.6 キャッシュ設定

Sitecore CMS がインストールされたら、キャッシングを最適化して、ソリューションのパフォーマンスを向上させ、サーバー負荷を軽減し、システム能力を増加させてください。

キャッシュ設定の詳細については、SDN の『キャッシュ設定ガイド』を参照してください。

第 7 章

付録

この章には、環境設定に役立つ補足説明があります。

この章には次のセクションがあります。

- サーバーの設定
- IIS
- Visual Studio での Web プロジェクトの作成

7.1 サーバーの設定

以降のセクションにはサーバーの設定に関するさまざまな情報と手法があります。

7.1.1 フォルダーのセキュリティ設定の更新

フォルダーのセキュリティ設定を更新するには、次の手順に従います。

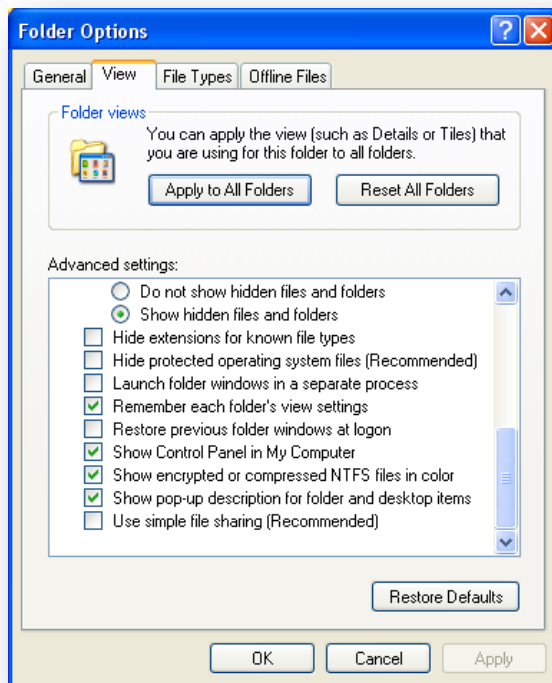
1. **Windows エクスプローラー**で、フォルダーを右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。
2. **[プロパティ]** ダイアログ ボックスの **[セキュリティ]** タブをクリックします。
3. **[グループ名またはユーザー名]** ボックスでユーザーまたはグループを選択し、**[アクセス許可]** ボックスで適切なアクセスを許可します。
4. **[セキュリティ]** タブの **[詳細設定]** をクリックします。
5. **[セキュリティの詳細設定]** ダイアログボックスで、**[子オブジェクトすべてのアクセス許可エントリを、ここに表示されているエントリで子オブジェクトに適用するもので置換する]** チェック ボックスをオンにします。

[セキュリティ] タブの表示

Windows XP を Home から Professional にアップグレードした後に、**[セキュリティ]** タブが表示されない場合があります。この場合、次の手順に従います。

1. Windows エクスプローラーで、**[ツール]** をクリックし、**[フォルダ オプション]** をクリックします。

2. **[フォルダ オプション]** ダイアログ ボックスの **[表示]** タブをクリックします。



3. **[簡易ファイルの共有を使用する (推奨)]** チェック ボックスをオフにします。

アカウントが **[セキュリティ]** タブに表示されない場合は、アカウントを表示する必要があります。

アカウントの表示

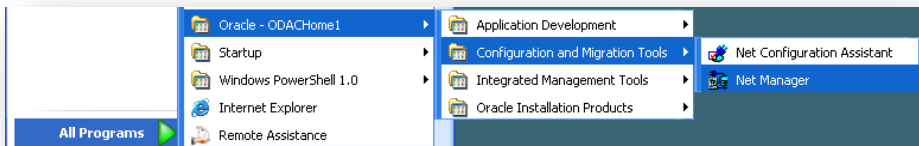
アカウントを **[セキュリティ]** タブに表示するには、次の手順に従います。

1. **[プロパティ]** ダイアログ ボックスの **[セキュリティ]** タブをクリックします。
2. **[セキュリティ]** タブの **[追加]** をクリックします。
3. **[ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択]** ダイアログ ボックスの **[場所を指定してください]** ボックスで、ローカル コンピューターが指定されていることを確認します。
4. **[選択するオブジェクト名を入力してください]** ボックスにアカウント名を入力し、**[名前の確認]** をクリックします。

または、**[詳細設定]**、**[検索開始]** を順にクリックし、追加するアカウントを選択することもできます。

7.1.2 Oracle インスタンスへの接続の追加

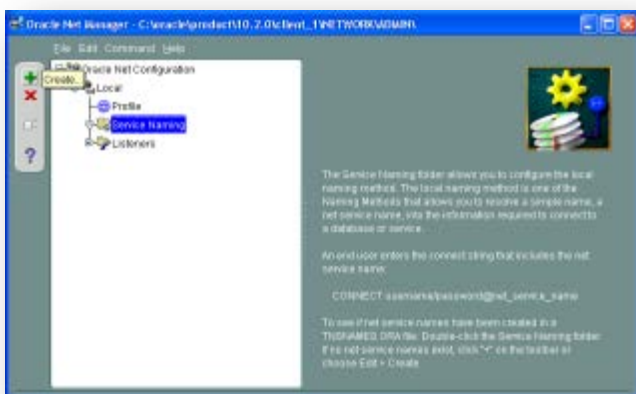
Oracle Client を PC またはサーバーにインストールした後、[すべてのプログラム]、[Oracle – Home]、[コンフィギュレーションおよび移行ツール] を順にポイントし、[Net Manager] をクリックすると、Oracle Net Manager を開始できます。



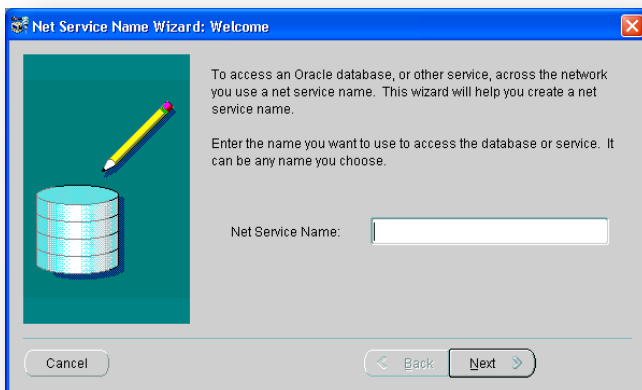
Net Manager のメイン ウィンドウは、アイテム ツリー (左側) と詳細ペイン (右側) で構成されます。アイテム ツリーの左側には、接続の記述の追加や削除ができるツールバーがあります。



Oracle インスタンスへの新しい接続を追加するには、アイテム ツリーの左側にあるツールバーの [作成] ボタンをクリックします。

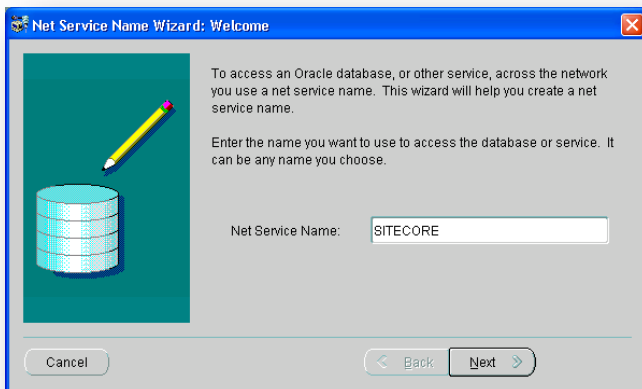


これにより、Net サービス名ウィザードが開始します。

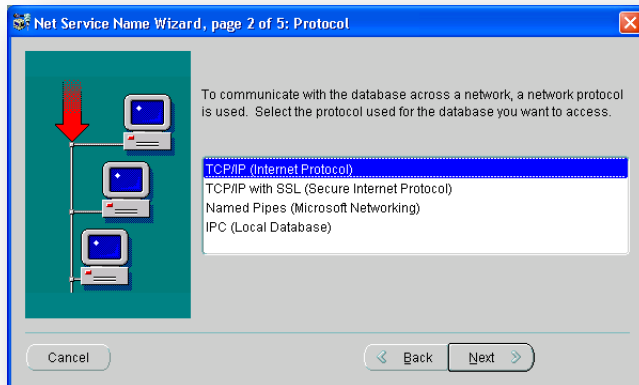


ウィザードの最初のページに "Net サービス名" を入力し、[次へ] をクリックします。

Net サービス名とは、Sitecore が Oracle サーバーに接続するために使用するローカル エイリアスです。Net サービス名は、Sitecore の ConnectionStringsOracle.config に含まれる、接続文字列の "data source" 部分に指定する必要があります。

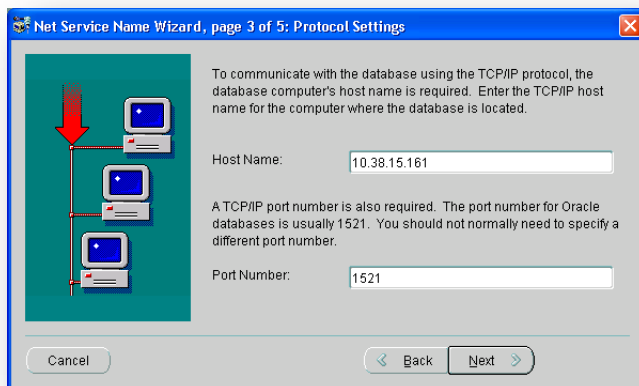


Oracle サービスに接続するためのプロトコルを選択し、[次へ] をクリックします。ローカル ネットワークでは、暗号化なしで TCP/IP プロトコルを使用するのが一般的です。



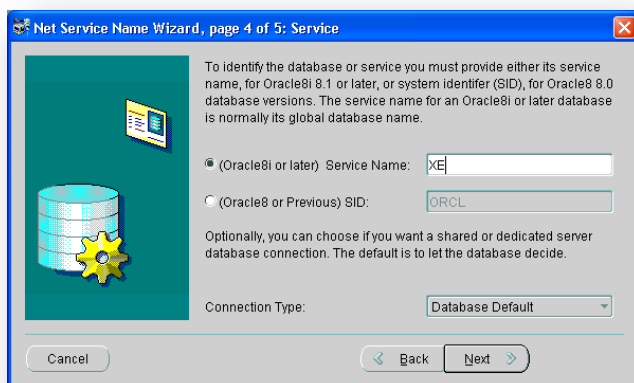
TCP/IP プロトコルの場合、Oracle サーバーがある "ホスト名" (または IP アドレス)、および TCP の "ポート番号" を設定します。[次へ] をクリックして次のページに進みます。

メモ: デフォルトのポート番号は、"1521" です。

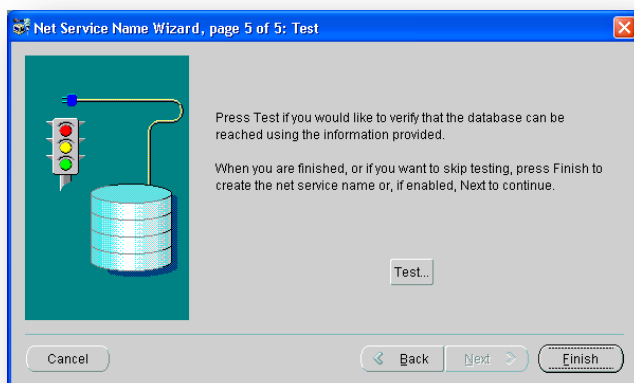


Oracle のサービス名 (リモート サーバーで設定したもの) を入力し、[次へ] をクリックします。

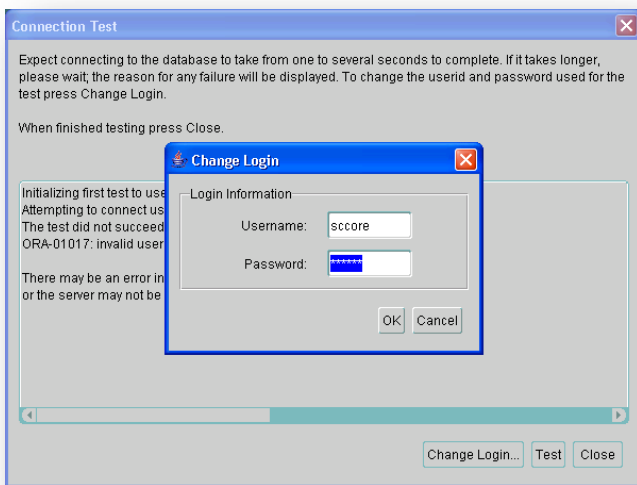
メモ: Oracle 10g Express エディションの場合、サービス名は **XE** です。



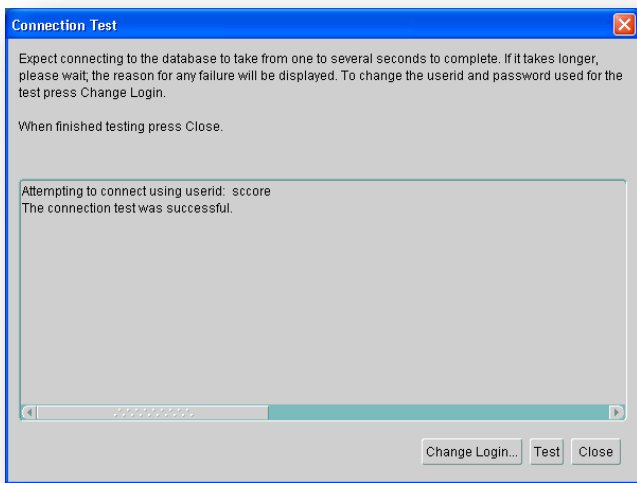
パラメーターをすべて入力したら、[テスト] ページの [テスト] をクリックして、サーバーへの接続をテストできます。



サーバーがデフォルトの "scott/tiger" の資格情報を受け付けられない場合は、[ログイン変更] ボタンをクリックして、Sitecore データベースのスキーマのログイン ID とパスワードを入力します。



パラメーターをすべて正しく入力した場合、接続テストで成功が報告されます。



[テスト] ページを閉じ、[完了] をクリックして、ウィザードを終了します。Net Manager のメイン ウィンドウに、新しく作成した接続、およびそのパラメーターが表示されます。

7.2 IIS

このセクションでは、IIS に関して役に立つさまざまな手法を説明します。

7.2.1 IIS へのアクセス

インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーを開始します。

Windows XP を実行している場合は、[コントロール パネル]、[管理ツール]、[Internet Information Services] を順にクリックして、IIS の Microsoft 管理コンソールを開きます。

Windows 2003 を実行している場合は、[コントロール パネル]、[管理ツール]、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] を順にクリックして、IIS の Microsoft 管理コンソールを開きます。

7.3 Visual Studio での Web プロジェクトの作成

Sitecore は、Sitecore ソリューション用の Visual Studio Web アプリケーション プロジェクト モデルをサポートします。

メモ

Visual Studio 2005 の初期のリリースには、Web アプリケーション プロジェクト モデルは含まれていません。Visual Studio 2005 サービス パック 1 には、Web アプリケーション プロジェクト モデルが含まれています。Visual Studio 2005 サービス パック 1 の詳細については、<http://msdn.microsoft.com/en-us/vstudio/bb265237.aspx> を参照してください。¹

重要

Visual Studio ソリューションと、Visual Studio を使用する Sitecore ソリューションごとに少なくとも 1 つのプロジェクトを作成します。新しい Sitecore ソリューションごとに以下の一連の手順を実行し、必要に応じて既存のソリューションに新しいプロジェクトを追加します。

既存の Sitecore ソリューションに対して Visual Studio Web アプリケーション プロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

1. Visual Studio で、**[ファイル]** メニューをクリックし、**[New]** をクリックして、**[プロジェクト]** をクリックします。**[新しいプロジェクト]** ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **[新しいプロジェクト]** ダイアログ ボックスで、**[プロジェクトの種類]** ツリーから、**[Visual C#]** を展開し、**[Web]** をクリックします。
3. **[新しいプロジェクト]** ダイアログ ボックスで、**[テンプレート]** リストから、**[ASP.NET Web アプリケーション]** をクリックします。
4. **[新しいプロジェクト]** ダイアログ ボックスで、.NET Framework のバージョンを選択します。Sitecore CMS のインストール中に、**[IIS Web サイト]** ステップで、.NET Framework のバージョンを選択しています(2.0 または 4.0)。
 - Sitecore CMS をインストールするときに .NET Framework 2.0 を選択した場合は、Visual Studio プロジェクトで **[.NET Framework 3.5]** を選択します。
 - Sitecore CMS をインストールするときに .NET Framework 4.0 を選択した場合は、Visual Studio プロジェクトで **[.NET Framework 4]** を選択します。

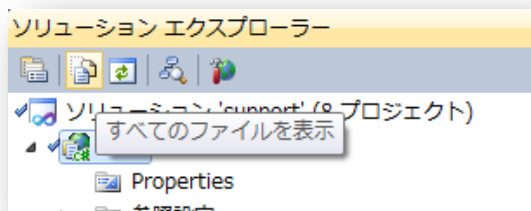
¹ Visual Studio 2005 サービス パック 1 の詳細については、<http://msdn.microsoft.com/en-us/vstudio/bb265237.aspx> を参照してください。

5. [新しいプロジェクト] ダイアログ ボックスで、[名前] フィールドに、たとえば、のように、プロジェクトの名前を入力します。Visual Studio は、この名前をデフォルトの .NET の名前空間およびアセンブリ名として使用します。
6. [新しいプロジェクト] ダイアログ ボックスで、[場所] フィールドに、たとえば、のように、Sitecore ソリューションのドキュメント ルートを入力します。C:\inetpub\sitecore\MyWebSite\WebSite.
7. [新しいプロジェクト] ダイアログ ボックスで、[ソリューション名] フィールドに、たとえば、のように、ソリューションの名前 (通常プロジェクトの名前) を入力します。
8. [ソリューションのディレクトリを作成] チェック ボックスをオンにします。
9. [OK] をクリックします。Visual Studio は、[場所] で指定されたディレクトリのサブディレクトリにプロジェクトを作成し、そのプロジェクトを開きます。
10. ソリューション エクスプローラーで、[参照設定] を右クリックし、[参照の追加] をクリックします。
11. [参照] タブをクリックし、ファイルを選択して、[OK] をクリックします。
12. ソリューション エクスプローラーで、ファイルを選択し、Copy Local プロパティを false に設定します。

Visual Studio でファイルを編集するには、それらのファイルが表示されるようにし、プロジェクトに含める必要があります。

ファイルが表示されるようにするには、次の手順を実行します。

13. ソリューション エクスプローラーで、[すべてのファイルを表示] をクリックします。



14. ここで、編集するファイルを含める必要があります。たとえば、XSL フォルダーを右クリックし、[プロジェクトに含める] をクリックします。
15. 最後に、それらのファイル自体をダブルクリックし、編集します。